

著 治 太 宇 川 谷 長

98
184

內 案 清 渡

行 發 社 本 日 之 業 實



自序

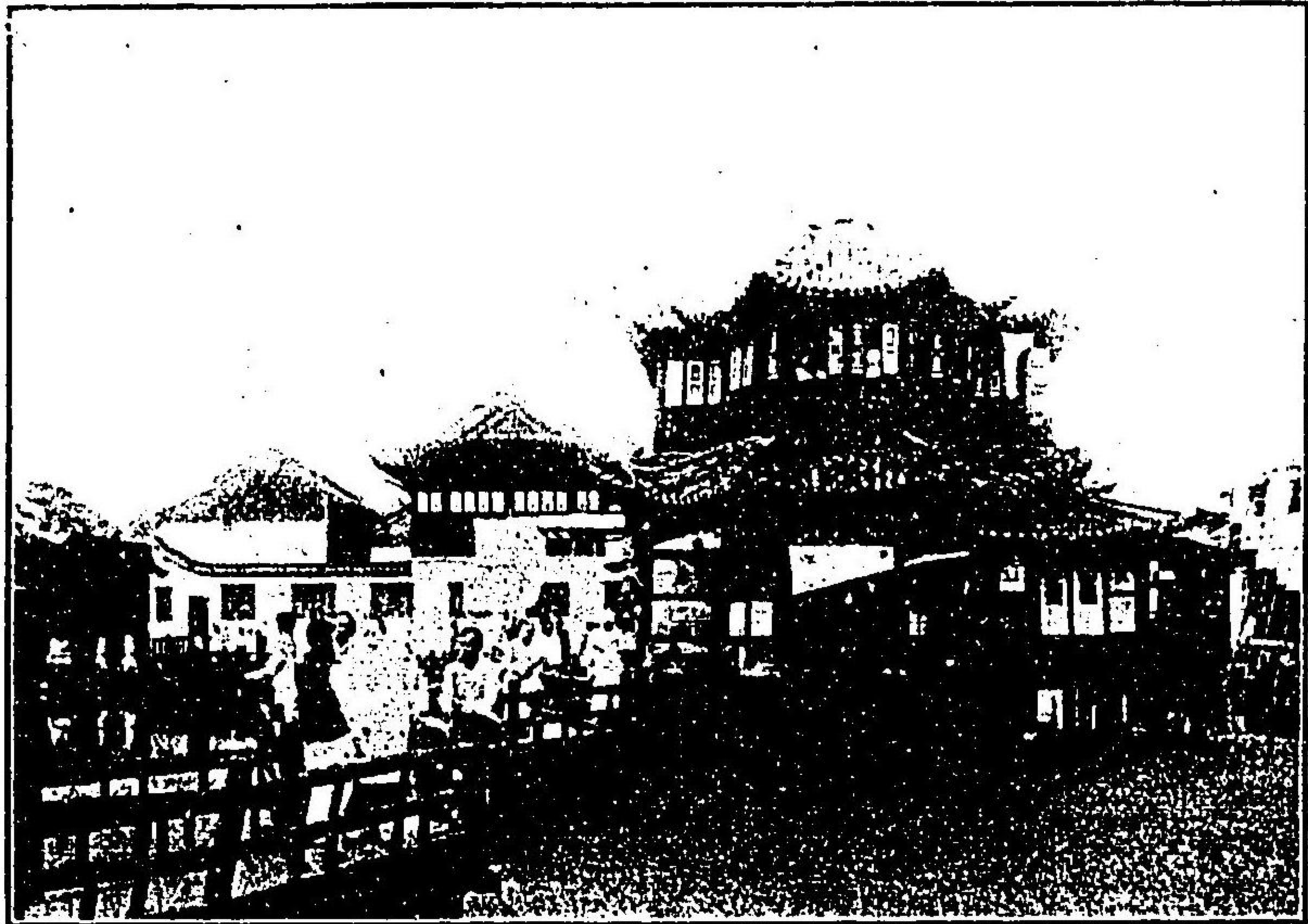
近來何を渡清者の多きや、日露戦役前と日露戦役後の今日とを比較すれば、俄然二倍強の増加を示せり、而して今や資本家も、技術家も、教育家も、宗教家も、大工も、政治家も、

明治 38 年 10 月 内交

左官も、書生も、労働者も、齊しく首を伸ばして清國經營の四字を夢みつゝあるもの、其數果して幾干ぞや、之れ清國は東洋の一大寶庫にして我戦捷國民の新發展地なればなり。

余も亦渡清者の一人にして、清國內に於ける
我同胞の企業心の壯んにして、續々新渡清者
の増加せるに驚ける者の一人なり、是を以て
支那商店の組織、商業の習慣、貨買車引及我同
胞の商賣振興等實地の調査と其目撃せし所
とを述べて、今後新に渡清せんとするもの并
に渡清後商店を開かんと思ふ人々の爲に聊
か其便利を圖らんと欲す、書中特に上海事情
に就て詳しく述ぶる所以のものは、上海は東
洋の一大商港にして且つ内外貨物の集散地
文化貿易凡ての中心點たるを以て、内地に入
らんとするものは是非一たび此地の商況取引
等の習慣を知らざるべからざる所謂支那四
百餘州の關門たるを以てなり、而して其清國
に於て一商店を開始せんとするには、果して
幾許の資本を要するかは之れ新渡清者の聞
かんと欲する一大要求ならん。余は更に此邊
に留意して忘らざりしを以て此案内記が讀

上 海 城 内 の 眞 景



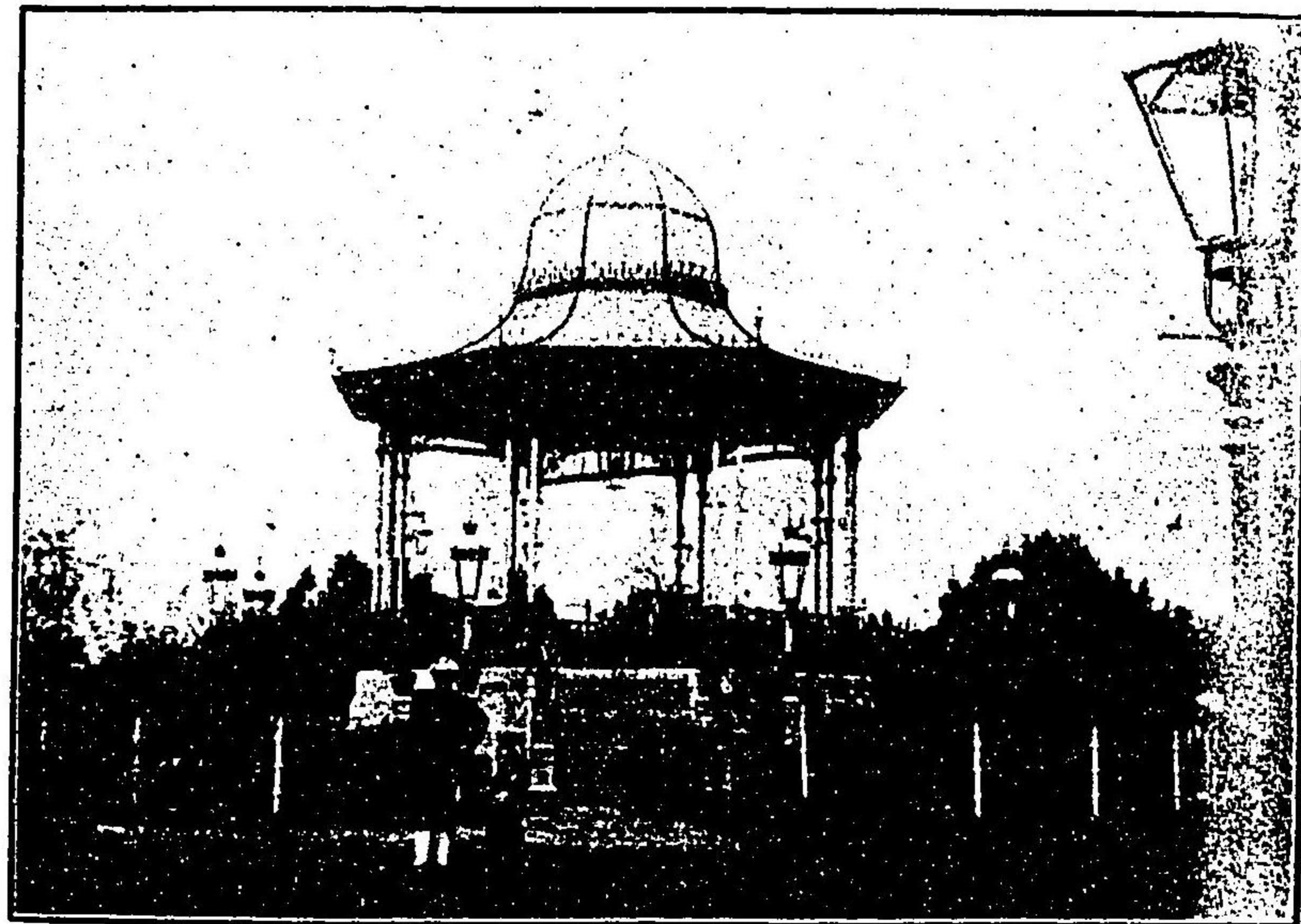
支 那 唯一 の 交通 機關 小 車 子



者の手引となり、新渡清者の便利に資する
を得ば先渡者の義務即ち足れり矣。

著 者 識

堂樂音の園公人外海上



園公の人那支海上



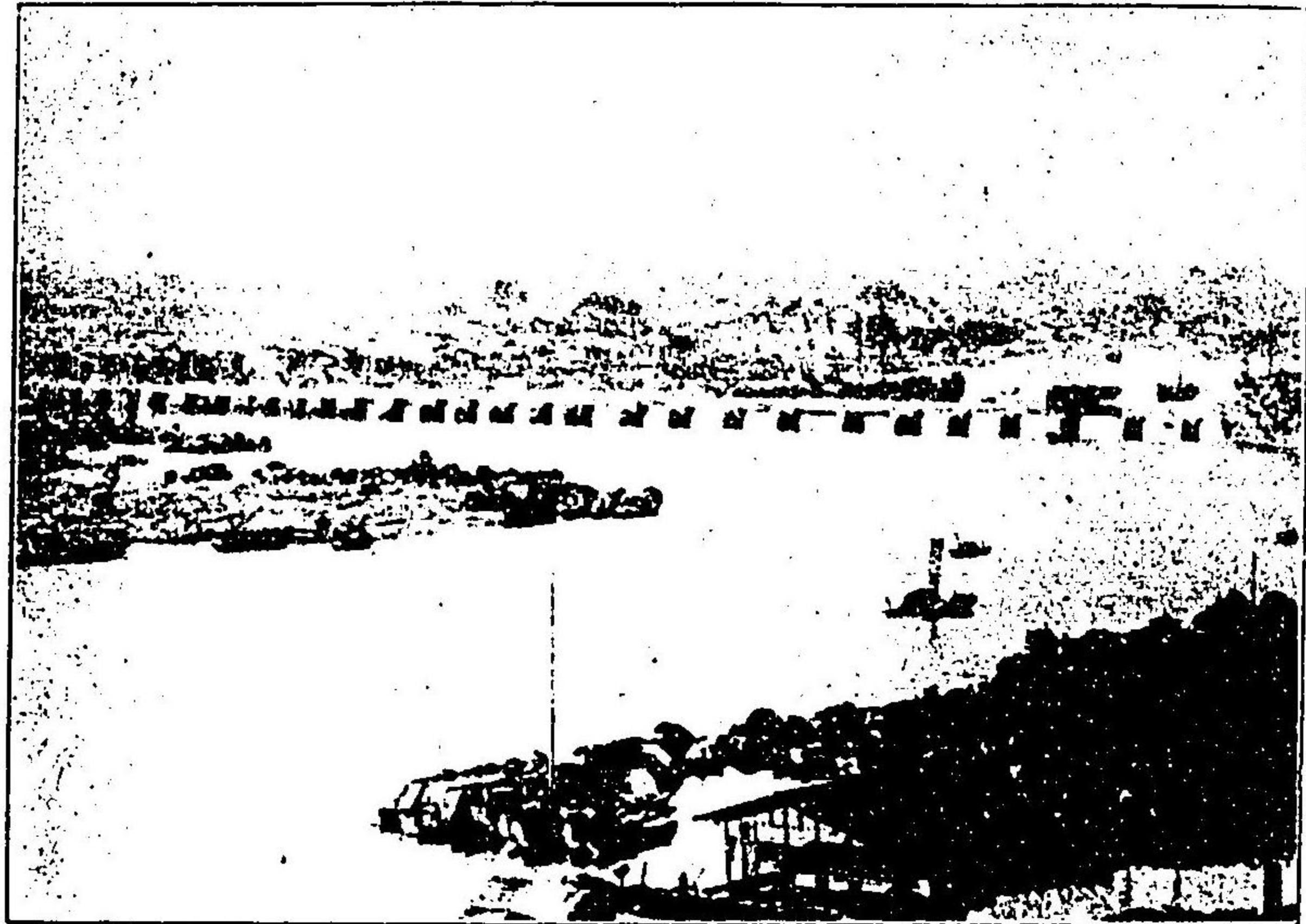
街路ヲ馬ヲ太ク心中ノ華繁海上



(場市ノて總菜野肉鳥魚)場市ノ海上



福 州 萬 壽 橋



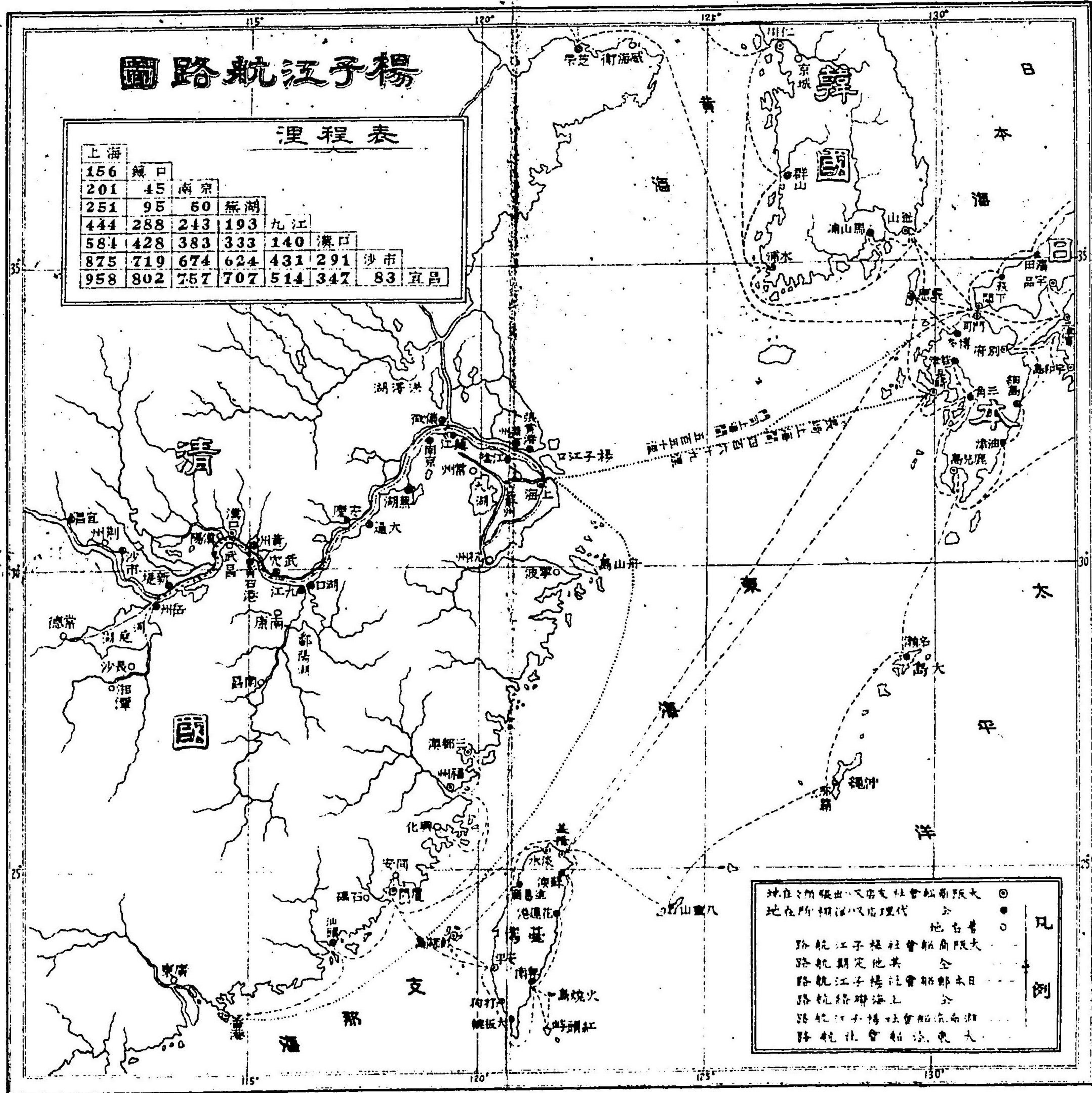
福 州 城 内 南 台 居 留 地 を 望 む



楊子江航路圖

里程表

上海	鎮江	南京	蕪湖	九江	漢口	沙市	宜昌
156	45	95	243	333	431	514	83
201	251	288	383	444	584	875	958
156	45	95	243	333	431	514	83



此在... 限大
 此在... 代理
 地名
 路航... 限大
 路航... 其
 路航... 郵日
 路航... 海上
 路航... 郵日
 路航... 限大

凡例

渡清案内目次

- ◎東洋の一大寶庫……………一
- ◎語學の必要……………四
- ◎清國內地旅行の準備……………五
- ◎汽船賃……………八
- ◎上海の上陸……………一二
- ◎日本人の旅館と下宿屋……………一三
- ◎上海居留地と城内……………二〇
- ◎在上海日本人の營業店……………二七
- ◎上海の住居と生活……………三一
- ◎上海の浴室……………三六

◎日本人の理髪店と女髪結……………三九

◎女髪結……………四五

◎寫眞屋と肖像畫師……………四六

◎市場……………五二

◎雜貨店……………五五

◎上海の公園……………六三

◎上海の日本料理屋……………六八

◎上海の日本藝妓……………七四

◎上海の日本醫……………七六

◎日本の産婆……………七九

◎賣藥事業……………八〇

◎上海の學校と出版事業……………九四

◎出版事業……………一〇〇

◎鶏卵輸入業者……………一〇四

◎輸出入品に對する税關の手續……………一二三

◎貨物の荷造と送狀……………一二七

◎棧橋料と倉敷料……………一二九

◎上海の金融機關……………一三二

◎貨幣と度量衡……………一二七

◎度量衡……………一三〇

◎上海の商業機關……………一三三

◎上海商業會議所……………一三九

- ◎茶館……………一四一
- ◎支那商店組織……………一四三
- ◎決算季節と其方法……………一四九
- ◎商店の責任……………一五〇
- ◎婚禮と葬式……………一五二
- ◎富籤と賭博……………一五九
- ◎支那の内地旅行……………一六五
- ◎支那人旅宿……………一六七
- ◎内地旅行の注意……………一六九
- ◎蘇州府……………一七四
- ◎抗州府……………一七六

- ◎楊子江沿岸……………一八〇
- ◎歐米清の商人と日本商人……………一八九
- ◎コンブラド……………一九四
- ◎上海の大阪商人……………一九六
- ◎結論……………二〇〇

渡清案内目次終

渡清案内

長谷川宇太治著

◎東洋の一大寶庫

支那は世界の大国で廣袤七十万方里其載する所の人口亦四億萬而して最も天産物に富み金銀銅鐵石炭石油絹布棉糸麻茶米大豆等其他の物産は到る所に累々攘々歐米人の驚嘆して東洋無盡の一大寶庫と稱して居るのも決して偶然ではない

然るに我國は幸にして此一大寶庫とは只一葦の帶水を隔る計りで指顧の間にある位であるから東洋の貿易市場たる此地に於ては歐米諸國の有すべからざる地理上の便利を有して居るので貿易上更に幾多の利益がある之か爲め我對清貿易は日進月歩の隆盛を示し殊に日清

戰役以來彼の通商條約の締結によりて我對清貿易は一大發展の期に進み企業心に一大刺撃を與へられたる我對清貿易家は此潮流に掉して天津上海等の要港は元より黄河揚子江の長流に遡り此一大寶庫に進入して相互通商上の利權の擴張に努めて居る加ふるに今回の日露戰役が我軍連戰連捷で大に世界列國の喝采を博し歐米諸國の同情を得たから此喝采と同情とは大に我國民の進取力に一大作興の運動を與へた之が爲め其後我國の政治家も實業家も資本家も労働者も之れから何でも支那へ出掛けて支那貿易の擴張をせなければならぬと云ふので色々の団体や種々の機關も出來中には清國視察の爲め實地調査に出掛けるものも非常に多い此勢ひでは平和克復と共に此一大寶庫たる支那大陸に向つて渡航するものは陸續踵を接するに至るであらふ現に三井三菱其他の有力なる資産家實業家が既に既設事業の擴張に着手し或は新に資本を投じて着々計畫して居る人々も非常に多

い殊に旅順陥落奉天占領以來は一層我國民の企業心を刺撃せしものと見へ我邦人の渡清するもの非常に増加して來たソレで昨今南清北清航路の便船の如きは何れも邦人の渡清者を以て充滿されて居ると云ふ有様であるから上海だけでも總領事の調べによると戰爭前と戰爭後の今日(三十八年四月末日調)とを比較すると渡航者の數は二倍三倍に増加して居る昨年二月末日の調査では二千三百餘人で今では四月末日(三千七百餘人)上海へ來て居るとの事であるが實際は六千人以上になつて居ると云ふことである支那問題の盛んなことは之れでも想像されるではないか。

ソレで我輩が渡清してから我輩が觀察した所經驗した所調査した所を述べて何でも之れから支那で一仕事をしよふ、小店の一ツも出さう、労働してでも男になつて見よふ即ち新運命を開拓しよふと云ふ人の参考手筈案内になる様な事を注意して未だ清國を知らざる人々の爲

に便利を謀るふと思ふ。

◎語學の必要

外國へ行くに差し當り不自由を感ずるのは其國の言語に通せないのである殊に支那は尅然たる大國で十八省は愚か^{おろ}到る所人情習慣風俗を始めとして其第一必要なる言語を異にして居るから語學の研究も一番困難である現に東京に留學して居る同じ支那の學生でも其出身地によりて皆言語を異にして居るから同じ支那人同志でも話の出来ないものは決して珍らしくはないそれで折角上海語に熟達しても香港天津漢口へ行けば何の役にも立たない始末骨折損の疲勞^{つかれ}儲けとは支那語の替古である併し支那語を研究するにも北京官話を學んで置けば大抵清國何れの地へ行つても上流社會即ち官衛や大なる會社商店のものには分るから支那語を替古するならば北京官話をやるがよ

い故に語學準備の餘暇あるものは東京市神田區錦町に三ヶ月の速成で清語の教授をして居る清語學堂と云ふのに就て一通りやつて置くがよい之れは早稻田大學支那語講師の青柳原口兩氏の設立で熱心に教授されて居るから成績も好いとの評判である夫れども英語の出来る人は開港場等の歐米人と往復して居る所では不自由もなかるふが内地では矢張り北京官話の方が使用道が多い併し同文國の事であるから筆談で無理を透せば啞の旅行は出来ないこともないから差して思ふ程の心配はなす。

◎清國內地旅行の準備

從來我政府では渡清者に其所在の府縣知事から渡航免狀を下附することになつて居つたが現今では其必要はなくなつた併し餘り手數の要らぬ事であるから支那内地へ旅行しようふと云ふ人は矢張り之を取

て置くがよい渡航免狀が面倒ならば町村役場の戸籍の謄本でも取つて置くが好い之れは領事館や支那政府の取扱方に多少の信用と便利があるから持て行くに越したことはない其れから旅行に必要なのは旅装であるが支那旅行には別に旅装の準備が必要である支那内地の旅行と來ては日本の旅行と違つて宿屋と云つても只土間一ツ貸して呉れる丈けで夜具もなければ其他何等の設備がないから假ひ茶碗や箸は貸して呉れるにした所で支那の内地は穢多村同様で先天的潔癖の我々日本人には逆でも支那人の食物も喰へなければ器具も使用することは出来ないそこで内地旅行に就て大体準備すべきものは

一夜具毛布 一蚊帳(夏ならば) 一洗面器(金盥の類) 一食器(茶碗、箸、皿、椀、揚子) 一鹽
一蠟燭 一マツナ 一提灯 一先鋒 庖丁 一コロッソ拔 一硯、鉛筆、筆、紙、墨、封筒 其
他衣服帽子靴等に要するもの 一熱さまし、下痢どめ、寶丹、毒消、風邪藥等

其他必要なものもあるが第一忘れてはならぬのは便器即ち大小便のする器である支那では糞桶フンバケツと稱して丸い桶に蓋の附いた者がある家

族は各々一ツ宛所有して自分の起臥する室内に置いて居る故に支那には雪隠と云ふものはないソレで晝は野山に垂れ流しにしても可かろふが夜は盜賊の多い所でお負けに無警察の有様だから何れの家も夜中の戸締りが嚴重で夜中戸を開けて戶外へ出ることを許さないから内地への旅行には皆な雪隠便所迄背負ふて行かねばならぬ隨分支那内地の旅行にはお荷物ドツサリで困るけれども其代はり内地旅行の人夫賃や車賃が安い先づ五六里荷物を擔かして十錢位やれば澤山だから携帶品は成るべく充分用意して行くがよい又蚊帳は大布呂敷の代用にもなり夜具は船中臥し寢に必要であるから手荷物として毛布の代はりにも重寶ではあるし殊に船中は手荷物賃を取らないから何はサテ置き夜具丈けは持ち物なれども持つて行くが好い。
ソレから船暈に弱いものは水天宮さんの守札よりも武力の罐詰めの空殻ウツを持つて入船いるが好い之れは碇泊港で大小便を忘れて沖の荒波

に揺られて船量でもすれば便所まで行けぬことがある其時其空罐を出して大小便を仕込み船の窓から棄てるのである之れは何でもない事であるが實際船量に弱いものは大小便に困る。

◎汽船賃

旅装が備へれば旅程に上ぼるソコで横濱から上海神戶門司長崎から上海までの汽船賃は幾くら要るか云ふに郵船會社の船賃は先づ一等(洋食)が五十四圓で二等(洋食)が三十三圓三等(和食)が十二圓である尤も郵船會社の船でも船の大小速力の遅速等によりて多少乗客賃を異にして居れども大体は左表の通りである。

横濱上海間船客賃金表

横	
一等	同往復
一二、〇〇	一八、〇〇
二四、〇〇	三六、〇〇
三〇、〇〇	四五、〇〇
五四、〇〇	八一、〇〇

濱		
二等	同往復	三等
七、五〇	一二、〇〇	二、五〇
一四、〇〇	二一、〇〇	五、〇〇
一九、〇〇	二八、〇〇	七、〇〇
三三、〇〇	五〇、〇〇	一二、〇〇

神					戸				
一等	同往復	二等	同往復	三等	一等	同往復	二等	同往復	三等
一一、〇〇	一八、〇〇	七、〇〇	一一、〇〇	二、五〇	一一、〇〇	一八、〇〇	七、〇〇	一一、〇〇	二、五〇
二〇、〇〇	三〇、〇〇	一二、二〇	二〇、〇〇	四、〇〇	二〇、〇〇	三〇、〇〇	一二、二〇	二〇、〇〇	四、〇〇
四二、〇〇	六三、〇〇	二六、〇〇	四〇、〇〇	一〇、〇〇	四二、〇〇	六三、〇〇	二六、〇〇	四〇、〇〇	一〇、〇〇
一〇、〇〇	一五、〇〇	六、〇〇	一〇、〇〇	四、〇〇	一〇、〇〇	一五、〇〇	六、〇〇	一〇、〇〇	四、〇〇
三二、〇〇	四八、〇〇	二〇、〇〇	三二、〇〇	一〇、〇〇	三二、〇〇	四八、〇〇	二〇、〇〇	三二、〇〇	一〇、〇〇
二、〇〇	九、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	八、〇〇	二、〇〇	九、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	八、〇〇
二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇

時	長		
	三等	同往復	二等
上	六、〇〇	二二、〇〇	一五、〇〇
海			三六、〇〇

此外に郵船會社が委託されて取扱ふて居る大北汽船會社の姉妹船二隻がある、漸く今年の二月から東洋航海を開始したので噸噸は二万一千噸だと云ふから素的減法な大船で丸で海上に一敵國をして居る浮城の様である之れならば航海は一層安全で其賃銀と云へば

自横濱上等八十圓 下等三十九圓 支那人十六圓
 自上海同 七十圓 同 三十一圓 同 十四圓

此外に外國船の東洋航海をして居るものが澤山であるが何れも外國船には中等と云つて無いが其下等と云ふ奴が部屋が大低別々になつ

て三度の朝夕西洋料理を出すに云ふから西洋人から云へば下等だが日本人から見ると立派な中等で其特別下等と云ふのがツマリ支那人下等と云つて日本人の云ふ所謂下等である。

其所でモー一ツ甘く都合の好い奴をと云へば之れも外國船でツヤパシメールと云ふ會社の船がある今フランスメール會社の船と競争して居る結果下等に限り三十圓を十五圓即ち半額に割引して居る此下等も矢張り日本の中等で二人室四人室になつて居つて三度共西洋料理で中々優遇して居るさうだツマリ日本郵船會社の下等の賃銀で中等の待遇で行けると云ふのであるから之が一番安い所が此船に限りて日本の新聞へは發着等の廣告はして居らぬ横濱か神戸で發刊して居る英字新聞丈けに廣告して居るから其新聞を見て同船の發着を知ることにするがよい、中等の船客は下の船でも同じ事だが此船でも荷物取扱人へ一圓と部屋掃除のボーイに五十錢の鼻藥は普通になつ

て居るから之れも餘計な事だが船は瀛車と異り特別の便利を要する
場合が多いから奮發することを忘れてはならぬ。

◎上海の上陸

旅装も出来船も定まれば先づ横濱から乗り込むとして神戸門司長崎
へ寄港して上海へ着くのは速い船で六日間遅い船で十日間を要する
航海中瀬戸内海の如き風光明媚の所もあるが其代はり遠洲灘紀州沖
玄海灘と来ては風波の尤も激しい所で乗客の平穩無事を祈る所であ
る殊に長崎沖に懸つて支那海に出ると一ツ荒れる所があるが長崎か
らは一晝夜半二晝夜位の航程であるから荒れると云つても一ツ時で
あるソレで彼の長流千里滔々たる揚子江へ入つて上海へ着くと乞食
の様な支那人が荷物運びに我れ先きにとヘシ合揉合つて遣つて来る
此所で一ツ注意せんければならぬのは日本の赤帽や車夫と違つて無

暗に渡すものなら手荷物を紛失する恐れがある支那人に渡せば始終
注意して後から見張つて追従て行かねばならぬ搔はれて行かれるも
のなら其れ切りで警察へ訴へた所が日本の警察と違つて逆でも分る
ものでないソレでコンナ無警察の地ではツマリ自分が警察であるか
ら渡清する時は其上陸に居る友人に船まで迎ひに来て貰ふ様にする
か日本人の宿屋の客引手代に荷物を托すか何ちらかにするのが便利
である初めての渡清者は何でもない事に大失敗をするの恐れがある
から注意の上にも注意が肝要である。

◎日本人の旅館と下宿屋

船が着いて上陸すると差し詰め一寸困るのは宿屋の一件である現に
上海の如きは旅館にも非常の等差があつて日本人の營業に係る高等
旅館と稱する内地の普通の宿屋でも普通宿泊料が三圓で一寸威張る

と五圓位取られる一番下等が一圓五十錢であるから日本内地の計算から見ると非常に高い此等の宿屋は申合せて一つの規約が出来て居つて一圓五十錢以下で客を引いたものには夫れく制裁があるこの事だが併し月定めにすれば一ヶ月三十圓位で滞在することが出来る高等旅館は多くは寢臺付で椅子テーブルの西洋風で中には球突場などの設備があつて日本内地の旅行者の目には一寸目先が違つて見える

併しモット安宿の方法を考へて安直に滞在しよふと思ふなら此組合外に所謂下宿兼業の旅館屋である之れは大抵一ヶ月十六七圓から二十五六圓位で相等のものを喰はして營業して居る夜具は勿論毎晩風呂を沸かす其程度は日本内地の五六十錢泊よりは甘いものを食はせて別に異なつた所はない只何れも怪しげな支那と西洋との雜種^{もの}兒建であるから仕入の唐紙やブクくの疊を敷いてあると云ふまで日

本の様に床の間もなければ花の一本も軸の一掛けも備ひつけてないから随分無風流殺風景ではあるが上海へ來れば贅澤には限りはないから此位の所で慾得勘定ツクで辛棒するがよい先づ御参考迄に其旅館と下宿屋業者との人名所書を示せば

所得高等旅館

虹口鐵馬路四二	東和洋行	吉島徳藏
同 南溇路一八	常盤館	常盤鶴太
同 西華徳路一	田中洋行	田中勸次郎
同 同 五	豊陽館	米田藤匪
同 同乍浦路一九三二	松崎洋行	松崎カメ
英 界廣東路八	番菜館	益田モト
虹口開行路B五	虎越家	瀬戸壽市
同 ハスケル路四一	浜越館	森田安太郎
同 文路一、二、三、四、	旭館	辻源助

下宿兼旅館

虹口文路一一七	吉川ト	同	三六一	大和屋	長澤ナロ
同 吳淞路八九九	横山マサ	同	乍浦路一七〇	井上サク	ク

上海の上陸

上海の上陸

一六

同 吳淞路	森 國太郎	同 天津路五六七	植木カキ
同 五六四	北川 産治	同 乍浦路三八九	中尾繁太郎
同 文路二五二	未廣館・武藤五十次		

即ち高等旅館と下宿業者と各々九軒宛で十八軒あるが今此等の旅館を開業しよふと云ふには何程の資本を要するかと云ふに概算は左の如くなる

▲高等旅館資本金

一金四千九百五十圓	總資本金
内 譯	固定資本金
金四千圓也	
内 譯	
二千五百圓	和洋室内裝飾品買入費
六百圓	夜具其他買入費
六百圓	諸道具買入費
百五十圓	借家門明け賃
百五十圓	創 業 費
金九百五十圓	流通資本金

(内譯細詳收支計算表中支出部)

高等旅館一ヶ月收支概算表

支出之部

一金九百五十圓	一ヶ月支出高
内 譯	家 賃
百五十圓	女中四人分一ヶ月給料
二十圓	ホーイ五人分給料
三十圓	帳場及コック給料
三十圓	水道使用料
百 圓	電燈電話及瓦斯使用料
六十圓	家族店員十五人一人前食費四圓ノ割
三百圓	客一日分ノ食料一人前七十錢の割十五人分一ヶ月
八十圓	固定資本四千圓ニ對スル利子月二割
五十圓	修繕補助費
百 圓	雜 費
	宿泊客一日平均十五人一人一日二圓泊トシ
	テ一ヶ月分
	茶代其他心づけ

放入之部

金千二百五十圓	上海の上陸
内 譯	
九百圓	
二百圓	

一七

上海の上陸

百五十圓
差引金參百圓

酒ビール煙草其他買物雜收入
一ヶ月利益高

下宿兼旅館之部

一金四百六十圓

總資本金

内譯

金二百八十圓

固定資本金

内譯

百圓

夜具及室内備付品買入費

百圓

諸道具買入費

三十圓

借家門明賃

五十圓

創業費

金百八十八圓

流通資本金

(詳細内譯ハ支出部ナリ)

一ヶ月收支概算表

支出之部

金百八十八圓

内譯

四十圓

十圓

十圓

家賃
ボーイ支那人一人女中日本人一人給料
コック給料

十圓

三十圓

五十圓

三圓

三圓

水道使用料
家族雇人七人一人前食費四圓ノ割一ヶ月分
客一日平均七人ノ割一人一日食費二十二三錢ノ割
一ヶ月分
固定資本二百八十圓ニ對スル一ヶ月ノ利子月二割
修繕費
薪炭油其他雜費

三十圓

收入之部

金貳百三十五圓

内譯

貳百十圓

拾圓

拾五圓

一ヶ月收入高
客一人一ヶ月平均參拾圓宛七人分宿泊料
茶代其他心づけ
ビール酒煙草其他買物雜收入
一ヶ月純益高

差引金四拾七圓也

之れはホンの概算で精密に調査すれば出入勘定に多少の相違もある
ふが高等旅館も此豫算の如く四五千圓の資本を投すれば上海の日本
人旅館中の最高等旅館が出来る實際上海でも最初から四五千圓も投
じて居る旅館はない下宿業も四五百圓の資本を以て掛ければ下宿中

上海の上陸

でも上筋の部類で室内の備品は火鉢と座布團の外は何にもないから内地の旅館より資本を要せない只高等旅館は西洋の裝飾品に高くつくので之れにも際限はないが先づ五百圓宛四間二千圓か二千五百圓掛くれば立派である故に此豫算を以て實際に着手せば決して見込違ひの狂ひがない只旅館を営むには第一場所を選定せんければならぬ家賃に百五十圓もかくれば十四五間のある立派な西洋館を併かも屈指の場所で借ることが出来る先づ場所か第一でお女將さんや女中の御愛嬌は之れは特別の資本で其邊の加減はよろしく女將軍の敏腕活手にお任せすることにする

◎上海居留地と城内

宿屋が定まつて尻が落ちつくところ、市中の見物旁々買物に出掛けるが好い抑も上海は支那大陸三分の二の天産物及び種々の貨物を

吞吐し四億万の人口に大なる血液を興へつゝある彼の揚子江の咽喉に當れる東洋第一の貿易市場で東洋の桑港と稱せらるゝ程あつて内外の貨物は必ず先づ此地に集合して夫れから支那各内地へ夫れゝ分配さるゝのであるから其開港は僅々四五十年前にありと雖ども其進歩發達の迅速なる終に今日の隆盛を來したのである。

其所で上海の人口はと云ふと居留地と舊城内とを合して百万だと云ふ説もあり六七十万だと云ふ説もあり支那政府では此等の調査も出來て居らないのみならず支那では人民の戸籍さへも無い程であるから外の國の如く調査した統計表ナゾは無論なく所謂目の功勘定であるから何十万あると云ふことは斷言出來ぬが多數の説では七八十万はあるらしい居留地の日本人及歐米人の數は昨年四月の調によると皆で一万三千百十一人之を細別すれば英人が三千二十人米人六百三人佛人四百七十七人獨逸人六百八十九人露七十三人葡人千百二十六人

其他以和、西、諸國、人六百〇三人、印度人三百七十五人、其他マニラ等東洋人二百五人にして日本人の六千は尤も多數を占めて居る。

而して上海の南端の一部を城内と云つて所謂上海の舊市街即ち支那人町と稱する所で其北は佛租界其次は英租界其次は川一ツ隔てゝ米租界との四區域で我日本人は殆んど此米租界に居住して居る而して其最も繁華な所は英租界の太馬路と四馬路と云ふ所で其市街は英米佛界何れも三層四層五層樓の洋館が基盤なりに櫛比して居るから市中の建築物は壯觀であるソレに江戸ッ兒のベランメーが一冒目には東京の市役所を見る海軍省は知らないか日本銀行は石で三井の店は鐵だゾと啖呵を切つて威張るけれども上海に比ふれば四ツ辻の共同便所宜しと云ひたい位だ。

夫れから市中の繁華を見る時は赤髯チャン／＼馬車自動車で跋扈すと云ふ有様馬車の往來の多いことは驚くソレに東京で馬車を使用す

るものと云へば華族か大臣か握り罌丸で暮す穀つぶしの氣樂先生計りで實業家で馬車を使用して居るのは三菱三井は別として澁澤大倉安田雨敬と十本の指で數へらる位だが上海の市中を往來して居る馬車中の主人公と云へば何れも皆歐米及支那の實業家であるから上海に於ける實業家の地位と其生活の程度とが之れで推測が出来るではないか家屋の建築と云ひ店の陳列裝飾の工合と云ひ市中の壯觀上海は支那で支那人の町だと思つた人の目には此壯觀を見ては誰も驚かぬものはなかるふ。

其代はり上海の城内所謂支那町へ往つたら驚く居留地の壯觀に驚いた目には支那舊市街の不潔なものには二度吃驚だ何の事もない先づ日本の穢多村だ否穢多村にでもコンナ不潔な所はなかるふ大道四ツ辻を一寸入ると糞小便の垂れ流しで其臭氣甚しく立派な支那人が平氣で道傍で左り卷をやつて居る之れだから夏の金蠅が思ひやられる丸

で糞山の小便川だ夫婦喧嘩じやないが犬も喰はぬと云ふ程だから想像も出来るじやないかソナ鹽梅であるから人間も其臭に馴れるとエライもので角の料理屋や煮賣屋の店頭きでお客が召し上つて居るのに直ぐ向ふの野雪隠の様な開けつ放しの共同便で金時宜しくでやつて居る支那は専制だの居睡つて居るナゾと云ふが何でも馴れて慢性になつたら外から見ただよふにはないらしい。

そして其汚ない城内にはウシくする程澤山の支那人が居る船着場の河岸へでも往つて見給へ汚ない支那人が何所からコンナに發生だろふかと思ふ位で何奴も此奴も金儲けに掛けては一生懸命だから感心だ彼等の眼中は只金だ日に二三十銭得たサにせつせと稼いで居るのである。

コンナ工合に一方には金殿玉樓に棲んで出る時には馬車を馳つて贅澤の限りを盡して居ると一方には塵だらけ汗だらけになつてせつせ

と稼いで居るが歐米人の仕事は凡て大仕掛けで遠大の希望で將來の利益を計畫して居る其傍らで支那人が一騎討ちの勝負を賭して身を粉にして迄も労働に従事して居る我々日本人は鐵血的戦争には偉大の勝利を博して急霰の如き列國の大喝采を博して居るが平和的戦争金儲けの競争に掛けては官民共失敗の歴史を持つて居る商賣下手な國民であるからコンナ土地でコンナ人間を相手に一勝負しようと思ふには余程の決心と勇氣とが無ければならぬ我同胞はコンナ國コンナ人間の集り所へ来てドウ云ふ考を持つて居るか兎に角大きな仕事は歐米人や支那の老舗に占有されて小さな仕事は支那人の労働者に占められて居るからツマリ上を見ても下を見ても日本人のやる瀬が無いと云ふ有様其所で上海に於ける日本人の地位は即ち智識の程度資の程度を考へて見ると歐米人には叶はない生活の程度と労働力とは支那人に及ばぬから智識資本労働生活等の程度を比較すると恰度

能い似よつた相手がある即ち葡萄牙人^{ポルトガル}で在住者の數も他の歐米人よりも多いのと夫れに体格及人種の上から云つても日本人ソツクリで女ナンカは全然日本人で少しも違はない資本の點に於ても餘り大きなのがないとの事であるから上海に於ける日本人の地位は此葡萄牙人位のものである尙彼には其言語習慣風俗が歐米人に接近して居るから歐米人の會社や店へ雇はるゝにしても我々日本人よりも比較的便利を有して居るのがまだ彼等の長所である所が戦争の餘威に誇つて居る我同胞に向つてホルトギスと同様だナツと云ふと肩を聳かして怒るかも知れぬが併し此取組は實に好い取組でウツカリするとホルトギスにまで軍扇^{うちひ}を取られるかも知れない勢力の上には何等の發展をも認められないホルトギスに比較されては我々日本人の立場がないが併し支那貿易に付いては今後の日本人は余程考へんければならぬ。

◎在上海日本人の營業店

去れば我日本人は多く上海でドンナ事をして居るか云ふと横濱正金銀行支店三井物産會社支店明治生命火災保險會社代理店日本海上運送火災保險會社日本郵船會社支店大坂商船會社支店大東瀛船會社支店等を始めとし其他細小の會社及一個人の店舗即ち何々洋行を示せば

石炭商 八、貿易商 五、鶏卵商 五、雜貨店 七十九、新聞事業 四、活版印刷業 二、書籍貸本商 三、紙商 一、醫師 十二、看護婦 二、産婆業 五、藥種業 七、寫真業 八、畫師 三、旅館 九、下宿業 十一、料理店 十二、菓子屋 七、飲食店 八、理髮店 十七、女髮結 四、洋傘商 三、呉服商 一、足袋商 一、裁縫業 四、洗濯業 四、時計屋 二、靴屋 七、人力車製造販賣 三、石鹼製造業 一、化粧品製造販賣 一、塗物職 一、皮棍製造業 一、縫甲細工 四、ヤスリ目立業 一、大工 四、燈職 三、球戲業 七、遊藝 三、鍼灸術及按摩 四、氷ラム子店 八、質屋 二、通關事務取扱所、製本業、代辯業、代書人、寫真業、周旋業、海魚商、演劇、三味線、竹細工、電氣諸機械等各一宛

是は昨年末の調査の結果であるが其後我日本人の渡清するもの續々多くなつて今では六千人程もあるソウだが上海に居る日本人は如何

なる業務に従事して居るかど云ふと其業務職業別に上げて見ると前記の様で日本人の需用品其他凡て何不自由なきまでに整つて居るのは頗る結構であるが只残念なのは日本人の商賣は多く日本人を目的としての商買であるから所謂同胞相爭骨肉相食むと云ふ有様で支那へ態々出掛けて来て對清貿易をやるナゾと國へ對しては立派なことを言つて居るが之れは決して貿易でない日本人の需用品を日本から持つて来て日本人が日本人に賣りつけて日本人の金を日本人が取ると云ふに過ぎないので日本の懐中勘定は同じ事で態々遠國へ持ち運びする丈けが餘計の費用で高く賣つて高く買ふ、、のであるから甚だ心細い結果になる。

支那貿易と云ふ大きな看板を掲げて渡清した先生方か四億万の支那人を相手にせずには數知れた日本人を相手の商賣であるから商買の區域が狭小で其れに日本人の需用品は一種特別で歐米人共通のもの尠

なく外國人に適當しないものが多いから折角品物を持つて往ても賣り捌けが遠いので賣れた時にウント暴利を食つて置いて夫れで四日も五日も遊んで食つて行ける様にと云ふ算盤であるから高いことは目の玉が飛び出る様である先づ二三の例を舉げて見れば三錢の手拭が十錢で五厘の餅菓子が一錢二厘、二錢のチリ紙が六錢で、四錢の齒磨が十錢、二錢の状袋が五錢で一尺六七錢の唐縮緬が十五錢、男の散髪が四十錢から一圓女の髪が二十錢から五六十錢、チャン流しの武力湯沸が五十錢で二十錢の靴墨が五十錢若し日本人専用の下駄墨等に至れば三倍四倍もする。

コナ高い品物がドウして支那人の様な安物買の經濟に抜目のない人間には賣れるものでない其れで支那人が日本の品で支那人向のものがあれば直ぐ輸入して日本人の向を張つて盛んに商買をして居れば凡て仕入が上手であるから同じ日本の品でも支那人の店にあるも

のは日本人の店にあるものよりも一割も二割も安い故に支那で買物をするには必ず支那人の店へ往くに限る支那人の店なら幾位値切つても構はないが日本人の店へ往けば妙なもので何故か外國では値切る譯には行かぬ其れを日本人同志であるから値段も負けて呉れて親切にして呉れるだろふと思ふのは大なる間違で先方ではコンナお客を目的の商賣であるから遠慮なくドシ／＼高く賣りつけて居る尤も日本内地と違ふて家賃も高く運賃も餘計に懸つて居るから強ち無理ではないが折角何百里の海外へ押し出して支那貿易でもやるふと云ふ程なら一番多數の支那人を相手に支那人向の需用品を賣り込むことにしたいものである左もなくしては區域が狭くて大きな仕事は出来ない其所になると英米人殊に獨逸人ナドは實に素破らしいものである凡てがコンナ風だから日本店の日本製の品物はペラポーに高いが支那向きの支那製のものは特別に安い故に日本人の生活も支那的にすれば非常に安い生活が出来ると試みに日本人の生活の状態を示すこととせん。

◎上海の住居と生活

上海は文明非文明凡そ世界の人種雜然として雜居す故に上海の住民は世界地圖の上に胡座を構ひて居るか如く英米佛獨澳以西露蘭人葡萄牙亞弗利加印度暹羅安南朝鮮清國日本に至るまで皆其膝下左右前後に隣接す二階に白哲人種居を構ふれば下には朝鮮支那が煙を薫らして睡生夢死し前には露西亞裏には黑人混合人種は其左右に巢を造つて互に營々塵途に奔走す所謂隣人千里の客朝夕顔を見合はして互に語ることも出来ねば夫婦喧嘩の仲裁も徒勞に屬し隣では嫁娶り婚娶りの祝宴にビヤノ、オルガンの吹奏が始まると前ではベビーが出来たと云つて悦んで居るが裏では泣き婆々を雇ふて葬ひの準備をし

て居る吉凶禍福喜憂善惡共に其風俗人情習慣言語を異にせる世界の雑居であつて隣近所の交際つひがないから面倒が少なくて却つて面白いコナ生活は上海でなければ出来ない併し流石英語は世界語となつて居るから何れの婆々や小供も英語の半分は解して居るので互に怪しき英語で嘖珍漢な滑稽を演じて居ることもある。

生活の度は流石歐米人丈けあつて比較的上等生活をして居るが我々日本人は支那料理に馴れ易い傾きがあるから支那的料理法にて生活するが好い去れば米は安すし魚類や牛肉鶏肉豚肉野菜等の生活日用品は安いから安い家でも都合好く探かし當てれば生活費は幾位も掛からない家賃は日用食品に比すれば格外に高いから夫婦ものならば店の二階とか裏長屋の一部室を借るが好い西洋と支那との雜種ミックス建築所謂折麥造りの二階か或は其一室ならば大抵四五圓から八九圓出せばある所が何分支那家の事であるから板の間で外に何にも設備がな

いから二圓位の寢臺と二三脚の椅子とテーブルとを備付けて支那西洋風にしても好いが日本人の習慣として疊の上で生活しつけた風があるから初めの間は身の置き處に困り腰掛け計りでは何となく疲れを安めるところが出来ず身の置き所心の落ち付き工合が悪いと云ふので矢張り日本人は疊を布ひて日本流にやつて居るものが多い所が上海にも疊職は來て居るか日本専用の品であるから馬鹿に高い一枚が二圓四五十錢から三圓迄だと云ふから驚かざるを得ない其れに支那や西洋館は日本家と異なり疊敷に合はせて建築したのでないから半端の疊を織き合はせなければならぬ若し店でも開く積りで一軒別に借りよふと云ふには下が二間にコック部屋と二階が二間位で通り前の商賣のキク場所先づ三十圓は出さなければならぬ夫れに門明け賃と稱して大抵家主へ一ヶ月分位の金を拂ふ習慣になつて居る之れは日本内地の敷金と異り拂ひ切りで返金しないことになつて居るが

之れも最初家主と甘く掛け合はないと高いことを云ふから能く而談の上値切るが好い家賃も聞て見ると二三年前とは非常に騰貴して居るから久しく住んで居る人は安く住んで居ると云ふ風で同じ家でも家賃に非常の差がある尤も表通りと裏通りとは二三割も違ふが昨今の相場は前述のものと餘り大した相違はない。

一軒を借るにしても部室を一ツ借るにしても兎に角家賃は日用の食料品に比較せば格外に高く家賃と生活費とは儉約さへすれば半々位なものでも十圓の家賃で親子三人で二十圓で立派に暮しが立つと云ふ有様先づ日用品の物價はと云ふと

米	一升	八錢	醬油	日本四十錢	味噌	日本横濱一斤十二錢	酒	日本	壹升	九十錢					
鹽	支那一	升十錢	豆腐	五厘	野菜	東京の三	魚	日本東京	同	同					
豚肉	百二十目	二十錢	鶏卵	一個	七厘	茶	支那三十錢	石油	十四錢	薪	一貫目	十錢	炭	三十斤入	五十錢
砂糖	百二十目	九十錢	此外諸物	十三錢	水道費	一ヶ月一圓位									

コンナ風に日本の品は非常に高いが支那の品物は格外に安いから支那的に生活して儉約主義でやれば實際幾らでも安く出来る所が酒も日本酒醬油も日本味噌も日本と云ふ風で日本の雜貨店で買ふ品物で生活するものなら少くとも日本内地の二三倍を要する之れは余計なこととで随分支那の食品でも日本人の包厨を加へて加味すれば甘いものもあるから支那用の食品を使用することにすれば一ヶ月三四人で二十圓位で立派に暮せる上海の城内で仕出屋から朝夕三度の辨當を取つて一ヶ月四圓で中等の料理で持ち運んで食はして呉れる上海の日本中で夫婦暮しか獨身者では部室丈け別に借りて日本の料理屋から三度の辨當を取つて居る人もある一ヶ月一人前十二圓から十五圓夫れから部室丈け他所の二階でも借りて三度の食事は日本の宿屋へ喰ひに往く人もある之れは一ヶ月十圓から矢張り十二圓で可成りの御馳走を出す浴湯に不自由な所であるから宿屋へ喰ひに往つて

入湯して歸るも便利で上海の獨身者には能くあることである。只家を持つて困るのは入浴するのに上海には湯屋のない一事である。

◎上海の浴室

日本人が支那や上海で家を持つて世帯をするに一番不自由を感じるのは湯屋で支那人は風呂に入つて清潔にするのは月に一度か二度位で皆朝夕二度湯手拭で顔や体を拭いて居る尤も支那にも白石浴室、清泉と云つて風呂屋を營んで居るものもあるが上海では盆湯と稱して一人毎に浴する者と混浴と稱して日本の如く多衆一所に浴するものとの二種がある何れも男女の區別はあるが女子の風呂屋へ來るのは中等以下で上等社會では決して來ない

盆湯と混浴とは室内で區別されて居つて入口は一所で中へ入れれば湯取場が一段高見張りとなつて湯取場を取つて居る衣服を脱ぐ所

には矢張り姿見鏡ナツがあつて箱や籠の衣服入れがある盆湯は大抵十二三個も備へ付けられてあつて下等は桶の様なものだか大抵は西洋向きの楕圓形の陶器で一人毎に板圍の隔てをして互に見へないことにして居る始めは垢摺り洗ひ流をして三助は石鹼で以て手の先き足の先きまで奇麗に洗ひ流をして呉れる其れから再び湯を入れ替へて悉皆身体を清める之れが所謂日本の掛り湯と云ふ様なもので湯から出ると三助は洗面器に湯を入れて持つて來る夫れから着物を着るまでに幾度となしに熱き手拭を絞つて持つて來る夫れから手足の爪を揉んで呉れるお茶を持つて來る夫れで湯錢は十錢から三十錢まである下等の湯屋では十錢十五錢だが上湯で西洋人の來る所ナツは三十錢四十錢も取つて居る爪取りは別に五錢七錢宛取られる

混浴は日本のよりは廣く湯船は悉く石造で一開四方位の升形に石で圍ふて一ツ宛別になつて居るが湯は何れも往き抜けで一ツ湯である

宛も芝居の平場棧敷の様に四角に仕切つては居るが仕切りの石の巾が廣いから浴客は何れも其石に腰を掛けて洗ふことになつて居る支那人の事であるから皆湯の中で洗つて居つて尻や睪丸を石鹼で以て平氣で洗つて居るから余程早く行かぬと湯が白く黒くなつて不潔で堪らないソレに湯船や其他の掃除が不行届であるから湯垢かズルのひて頗る穢ない一面の湯船で日本の如く流し場が狭いから室内に蒸發氣で冬は暖いが逆上氣味のある人は逆でも長湯は出来ない湯が濟んで出ると別に熱湯がある支那の習慣として小さな桶で汲み上げて其熱湯で手拭を洗ふて顔体頭を拭くことになつて居る其所から出ると盆湯の時の如く頻りに手拭を濕して來るお茶を持つて來る暖い手拭に香水ナヅ振りかけてあるから甚だ氣持が好いソレで湯浴の方は湯錢は七錢から十錢支那人は大抵三錢位だか外國人は凡て倍額になつて居るから七八錢は取られる夫れにしても日本の湯錢に比較すれば頗る高價で日本人の如く安い湯錢に慣れて居るものに取りては湯錢は非常に高い心地がする

◎日本人の理髮店と女髮結

理髮店の顧客は歐米人と日本人で辨髮の支那人は全くの例外である故に歐米人及日本人の少ない支那の内地へ入れば仕事がなく上海では日本人計りでも五六千もあり内婦人もあるが歐米人を相手にして居るから理髮店も最初の間は非常の繁昌をしたが利のある處に競争者が現はる今日では日本人の上海で理髮店を職業として居るものが左の十七軒あり

日本人の理髪店と女髪結

虹口百老匯路一六〇
 同 八七
 同 二八一
 同 吳淞路四七六
 同 三一三
 同 文跡二六一
 同 二二三五
 同 有恒路四一
 同 六九
 同 閔行路乃五虎家方
 佛租界天主堂路四六
 虹口文路二三六八
 同 一三〇
 同 百老匯路一三〇〇
 同 文路一四九
 同 乍浦路三九三
 同 二六

四〇
 吉田 岩吉
 岡崎 徳藏
 竹原 幸太郎
 宮口 竹三郎
 近藤 慶四郎
 村山 一太郎
 眞野 嘉吉
 木下 喜太郎
 白石 福太郎
 中村 貞十
 村山 市太郎
 西崎 金三郎
 尾原 五良吉
 牛島 清三郎
 本村 源藏
 加藤 光正
 吉田 岩吉

理髪店は何れも歐米人を倍額とし日本人は四十銭から一圓迄普通は六十銭位で歐米人は一圓から二圓位を取つて居る夫れでも歐米人の

理髪店では二圓から四圓位まで取つて居るから指頭の手藝に巧みなる日本人の理髪は代價も其割に餘程安いから大抵の西洋人は日本人の理髪店へやつて来る支那人の方でも開店したものもあつたが西洋人の潔癖と支那人の不潔癖とは相反發してチャンコロの店は戸閉めとなつて矢張り日本人の獨占事業に歸して仕舞つた而して理髪師の顧客には一回何十銭と云ふ普通の客と一ヶ月何圓と云ふ定客とがある定客の方は西洋人は理髪か月に二回鬻剃りが七回で二圓であつて日本人の方は一圓位が普通の定めである理髪店の方でも此特約をして居るが多くは廻り床と云つて一ツの草包に一切の理髪道具を入れて戸々に廻り持つて顧客先きを訪ふて居るものもある此理髪師は下宿屋又は別に一戸を構へて之を本職にして居る去れば今理髪店の収入は一ヶ月約何程あるかと云ふて顧客廻りの理髪師で一ヶ月四五十圓位の収入で理髪店の方は其店と理髪師の數と場所の好悪で各其收

入を異にして居るが普通が一ヶ月八九十圓から百二三十圓特別大仕掛けにして居る店は百五十圓より三四百圓もあるソウだが試みに今普通の理髪店を開業しよふと云ふには何程の資本を要するかと云ふと

理髪店開店の豫算

収入之部

一金百五十五圓

内 驛

百二十圓

三十五圓

支出之部

一金

内 驛

三十圓

五十圓

八圓

五圓

一日十人一人四十錢ノ割一ヶ月平均

二圓特約ノ西洋人十人二圓特約ノ日本人十五人

一ヶ月家賃

二十圓一人十五圓二人職人給料

鏡椅子其他備付品借料

ボーイ一人給料

三十圓

職人三人ボーイ一人家族二人六人ノ一ヶ月生活費

拾圓

雜費

差引金貳十貳圓也

一ヶ月純益高

一金七百二十五圓

總資本高

内 驛

百圓

三十圓

二百十圓

百二十圓

百圓

五十圓

百二十五圓

修繕模様替設

借家門明賃

椅子三脚代

鏡姿見三面代

備付品買入代

理髪ニ要スル器具費

一ヶ月支出費用運轉費(椅子鏡借入損料八圓差引)

理髪店の一ヶ月收支豫算は大低コンナもので若し理髪に経験のある人が開店するならば職一人儉約することも出来家賃も都合能く探し當てたものは三十圓の家賃でも二十圓で借入れることも出来客も之よりは多く其他總ての點に就て經濟的に甘くやつて居るものは一ヶ

月に此上に四五十圓の利益を見ることも出来るが其代はり下手にやるものは二十二圓の純益所か喰込みをして居るものもある其邊の働きは其人の手腕如何にあることで此際算尺は確實な普通の收支を豫算したのであるから先づ上海で理髮店を開いて職人三人抱へる程度の仕事をしよふと云ふには一切の資本が七百二十五圓で之れに創業費用と日本からの旅費其他多少の運轉資本を有して氣樂にやろふとするには先づ一千圓あれば立派なものだッウナ

併し上海には椅子テーブル姿見鏡其他何でも賃貸をして居る支那人が居るから店の諸道具一切損料貸に借り受くる考なら四五百圓もあれば之れと同様の店を開けることが出来る二三年前は日本人の理髮店と云へば大に繁昌したものだ其後競争者が増加して今では食ひ込んで居る店もあり失敗の結果閉店して廻はり床をして居るものが多い今では立派に營業して小金を貯蓄して居ると云ふのは多く二三

年前の繁昌した頃に甘く蓄め込んだ連中で今日では逆でも當時の様な甘い錢儲けがないとのことであるソレに他の商業と異り職人相手殊に床屋の職人と來たら渡り物が多くて尻の落ちつかぬ先生計りだから餘程經驗のあるものでなければ素人商買では直ぐ食ひ込まれる恐れがあり同業者間にも一の規約があつて職人の雇聘に就ても種々の條件があるが矢張り尻落ちつけて首尾能く働く職人が少ないので之れには一番困るゾウだ女髮結と來たら又別で日本の如くスキ兒を雇ふてやつて居るものは少ない

◎女 結 髪

日本の女髮結と來たら之れは日本人の專賣特許で支那人や西洋人に無賃で結ふてやろと云つても結ひに來る婦人はない何れも日本婦人がお客さんであるから収入も少なくてホンの内職位なものである御

亭主か何所かの會社へ稼ぎに往く女房が手内職に女髮結をすると云ふのが多い之れも藝妓の髮は一ヶ月二圓奥さん連のは一圓から一圓二三十錢一ツ結ひが十五錢から普通が二十五錢藝妓か奥さん連のは三十錢四十錢位のもので日に三ツ位宛結ふとも一寸した内職になる様だが海外は束髮が流行する傾きがあるから日に三ツ四ツの平均客のある女髮結は誠に少なくて大抵は餅菓子やしるこの遊び喰ひをして居るものが多い様だ今上海の女髮結は左の六名で此外にも二三名あるとのことである

田中くに、岡本はつ、岩永つる、伊東すえ、大島ふじ、松枝まさよ

◎寫眞屋と肖像畫師

上海で日本人が手ツ取り早く商業になるのは料理屋宿屋理髮店其次は寫眞屋である寫眞の原料は廉價であるから相當お客さへあれば之

れ程面白い仕事はない日本人で上海に寫眞業を營んだのは明治二十年頃が一番の始まりで西洋人の寫眞屋もあつたが頗る高價で支那人の面白半分樂み半分に撮影せんとするには餘りに高價であつたから日本人が安く且つ技術の點に於ても餘り違はなかつたので終に日本人の寫眞師が其利益を獨占して仕舞つた何でも創業の時に利益が多くて當時は餘程儲けたと云ふことである其後漸々寫眞屋が増加して今では支那人間にも中々技術の發達したものがあつた現今上海に於ける日本人の寫眞屋を調べて見ると左の八軒ある

- | | |
|------------|-------|
| 英界大馬路P三四七 | 佐藤傳吉 |
| 虹口百老路二四五六 | 鴨川チイ |
| 虹口アロードエード角 | 井上重雄 |
| 同 海寧路仁里一三三 | 石原仁一耶 |
| 同 文路六 | 小山榮助 |
| 同 | 浦川熊太郎 |
| 同 南潯路K一五〇 | 岩本貞由 |

寫眞屋と肖像畫師

今上海に於ける寫眞の代價を聞くに

普通寫	寫	プロマイト及プラチナ
手札形	半ダリス 三圓五十錢	二圓五十錢
中版	半ダリス 三圓	五圓
八ツ切	半ダリス 五圓	七圓
六ツ切	半ダリス 八圓	十二圓
四ツ切	半ダリス 十二圓	十三圓

右は各寫眞店の平均代價にして之より技術の長短店舗の大小等によりて異にせるも一般の相場は此邊にあるが如し故に一日平均五六人の顧客を有するに至れば優に上海の寫眞店として成功するものなりと去れば今上海に於て寫眞店を開かんとするには幾許の資本を要すべきか

支 出 之 部	收 入 之 部
一金百四拾圓也	一金百貳百貳拾
内 譯	差引金八拾圓也
家 賃	一日平均十二圓宛收入一ヶ月三百六十圓此中ニテ寫眞原料藥品其他ヲ四分ト見積リ三百六十圓ニ對スル四分百四十四圓ト差引純益金貳百貳拾圓ノ豫算
技師即ち燒一人給料	一ヶ月純益高
ボーイ一人給料	
四人生活費	
雜 費	
室内裝飾品損料	

右は寫眞業者間の概算に過ぎざるも今支那人の損料貸より借入るゝことを見合はせ一切の飾裝品を買入るゝ時は先づ三百圓の金は是非要することゝ知るべし而して家屋は商買が商買故繁華の場所と相當の家とを借り入れさるべからず寫眞諸器械の如きは一定せず眞價に非常の等差あり且つ寫眞店を開かんとするものは大抵寫眞器械を所

持するか又は新に買入るゝにしても其人の都合にあるものなれば豫算の上に計上せざることゝせり上海の標準は此位故之より各地の田舎に開店するも此標準により時の相場に考へて従事するにせば經驗を有する人々に於て餘り違算はなかるべし殊に田舎旅行には簡短なる器械を携帯して到る所の注文に應ずる時は相當の收入ありとのことなり

次に上海に肖像畫師なるものあり多くは油繪又は水彩畫にして水彩畫の如きは近來非常の流行にして油繪に比して代價も非常に安く又何人の嗜好にも投じ易きを以て水彩畫師は意外の收入を有し居れりと云ふ今水彩畫の肖像一面の運筆料はと云へば大抵四圓より七八圓迄にて平均三日に二面は描出する豫算にて一ヶ月の收入二百圓餘なりと然るに此仕事は一人にて出來ず相手を要するものにて英語に精通し外國人との應接に馴れ機敏にして恕才のなき所謂注文取りを要

し其注文取りが歐米清人の各商店及學校會社銀行或は軍艦商船等に入り込んで二三面の見本を持して注文を特約するものあり畫師は終日旅館或は自宅に在りて其注文により寫眞によりて之を描く故に日本の如く畫師が人の注文によりて之を描くものにあらず必ず海外の事情に通じ居る注文取りと相倚り相待つて互に其目的を達するものなれば其收入は折半して其一半は畫師之を收め残りの一半は注文取り之を取る仕組になつて居る其れで内地の畫家よりは甘い金を儲けて居る上海にも森軍六成田彌三郎中西榮次郎其他一二人の畫家が入り込んで忙かはしく描ひて居るが若しも上海其他繁華の所へ此目的で渡航しよふと思ふものは必ず軍艦商船内の事情に精通し英語に熟し歐米人との交際應接に巧みなる人と相約して一人は注文取りに奔走し一人は一室に在つて之を描くと云ふ方法を取ることを忘るべからず出來上つて之を海外の注文主に送付するには鍼力の長き鑷を作

り繪絹を卷ひて之に投じ蓋をなして之を送れば運賃は歐米迄十錢なりと而して其注文に應じて描く時は先づ其顔丈け描ひて注文主に其眞否を問ひ注文主の承諾を得て後他の部分を描き了はることゝせり若し全部描き了つて風姿容色實物と似ずして注文主の意に満たざる時は代價を減せられ又は更に之を描き直すの面倒を見ることあるが故一先づ其面色を描ひて其似不似の承諾を得ることも忘るべからず

◎市場

日本の東京大阪其他内地に於ても魚屋は魚店野菜類は八百屋肉類は牛肉店と其れく市街に店を構へてお客を待つて居るのと其牛肉屋八百屋酒屋等が戸毎に顧客廻はりをして品物の注文取りに来るから東京邊では其顧客廻はりの來るのを待つて其日の入用品を注文もすれば自分から魚屋八百屋へ出掛けて買物をする時には田舎から擔ひ

て賣りに來るのもあるから何時となしに買ひ整へることが出来るが支那では戸毎に注文取りに廻はるものもなければ八百屋の店も見當らない支那では何れもマーケットと稱する一定の市場があつて朝六時頃から十一時頃迄魚屋八百屋乾物屋鳥獸肉屋其他一切の食品は夫れく此市場に出店して一般の需用に應ずることになつて居るから市中のコックやボーイ下婢中には奥さん連が皆此市場に來集して其欲する買物を整へることになつて居る上海では英租界の大馬路に一ヶ所と米租界の虹口に一ヶ所と其他にもあるが上海の歐米人の設立に掛り市場監督長一人助役二人其他見廻人等が居つて市場を監督して居る而して上海で此市場に出店する外國人支那人の販賣店及び臺店の類が一万五千餘あつて此市場に對する販賣店の店賃は幾位かと聞くに肉類魚類を陳列せる販賣店の借料は一ヶ月七元乃至八元即我國の七八圓で臺店と云つて小さな臺で賣つて居るのが一臺の借賃が一

ヶ月二元五角我國の二圓五十錢野菜果實を陳列せる籠二籠分の容積一ヶ月五角即五十錢の賃貸料を徴收して居る組織は先づ簡短なものだが朝八時から十一時頃までは西洋人支那人日本人のコック下婢ボーイ奥さん娘つ子連が各々手籠籠を片手に西から東から雲の如く集ひ來つて賣買をやるから一時は中々盛んで雜沓して居るが午後一時頃になれば店屋も閉店して買手も歸つて仕舞から大きな建家内は寂然として淋しく二時のころには支那巡査の指圖で水道の噴水器で市場を洗ひ流して掃除をする市場は一面のタ、キになつて居るから掃除の跡は誠に奇麗で流石食用品の市場丈けあつて清潔にして居る若し十二時過となり市場の開けて居る間に買物をして置かねば市場の散じた後は大に買物に不自由であるソレで市中の人民は何れも午前五時頃から十一時頃迄に其日の買物を整へて置くから一時は實に盛んで此點は日本に見ない所である。

◎雜貨店

清國に於て日本人の營める商買中にては雜貨商店も多し之れ一は未だ支那の事情に精通せざると一は我日本人同胞を目的とせるに依る支那の事情に通せざるが爲め如何なる品が支那人に向くが如何なる物品か支那人の嗜好に投するかを知る能はざるを以て八百屋的多方面の物品を販賣するに至りたるは抑も雜貨店の始まりならん而して今上海を初め内地にある雜貨店には二種あり一は外國人を顧客とする店と一は日本人同胞を目的とするもの之れなり日本人を相手とする雜貨店は多く日本人向きの日用品にして吳服太物より酒醬油味噌乾物菓子陶器其他筑土釜石鹼紙類下駄等一切の小賣商人に過ぎざれば其資本金は大低一千圓内外のもの多く而して大低は日本内地の價格に比すれば殆んど倍格以上に賣り附け居るを以て小資本の割合に

は相當の收入あり外國人を目的とせる雜貨店は陶器磁器漆器の上等品にして其他日本美術的の彫刻物額面花瓶屏風革皮類刺繡物日本風俗の美術的玩具置物等にして何れも歐米人が日本の美術及新發展國たる日本の紀念物土産物として之を買入するもの多くツマリ好奇心に富める彼等の紀念物土産物としての玩弄的贅澤品に過ぎず一も實用的のものなく且つ購買力に乏しき支那人向きの實用的物品の乏しきは頗る遺憾とする所なり。

殊に我國の精翠たる美術品に一時的パチ物多く變色せされば破壊の恐れあり破壊せされば變色の虞れあり故に折角高價を拂ふて新發展國の美術品を紀念に郷里への土産として購ひ歸るも熱帶國を通過してストロブの上に装置せらるゝ間に何日しか變色し破壊するもの多きを以て日本の雜貨店の信用年々に減じて其顧客を失ふに至りたるは決して怪むに足らざるなり故に上海に住し日本の事情に通し居る

外國人等は二度と之を購ふものなく多くは各國の水兵及各旅行者が好奇心に驅られて新發展國の紀念として之を購入するに過ぎざるを以て今年舊客を送りて明年新客を迎ふと云ふか如く一定の顧客を有して永遠の信用を基礎として之を營むもの極めて尠なきは上海に於ける我雜貨店の弊害なりとす。

歐米人間には我國の七寶焼大に流行し一輪挿し花瓶等に用ゐる織出しの六枚屏風三枚屏風はストロブ隠し又はベット隠しに使用さるゝこと多く凡ての物品は三倍以上に販賣し居れども好奇心の強くして購買力を有する彼等は惜氣もなく購ひ歸る故に雜貨店にして歐米人等の嗜好に投ずる好個の物品を仕入れ暴利を貪らすして信用を重んずるに至らば雜貨店の繁昌期して待つべきである。

雜貨店の繁昌する季節は五月から九月へ掛けて歐米人等が夫婦小供相携へて納涼旁々市中散歩をするからツイ美術品等の奇麗に陳列さ

れたるに目がつき思はず知らず冷やかし半分へのぞき込むのが思はぬ客となりて澤山の買物をするところがあるから贅澤品裝飾品等の多く賣れるのは夏季が第一で此外に軍艦の碇泊した時と十二月の廿八日のクリスマス前には歐米人等は何れもクリスマスの進呈に購入するから非常に賣れるとのことで何れの商店も夏季前とクリスマス前には夫れく仕入れをすることになつて居る。

雜貨店で一番六ヶ敷いのは第一仕入の上手下手で資本のない信用のないものは勢ひ大阪東京其他の間屋から仕入れて販賣して居るが有力なる店では凡て製造元と取引して居るから無資本の店よりも利益が多いのは當然であるが何れもお客次第で目のクリ玉の飛び出る様な暴利を貪つて居るから従来は日本の雜貨店も相當繁昌した様であるが今日では以前の如く餘り甘い金儲けもないとの事である夫れに近來は支那人獨逸人等が日本の品物を仕入れてレットルを變更して

安く日本人と競争を開始したから日本の雜貨店は一大打撃を蒙つた上海の支那人獨逸人等の店に陳列されたる織物絹物漆器七寶焼金巾其他西洋舶來品と稱する雜貨は日本内地に於て製造したるもの多く彼等は此等の日本製造品を香港へ一たび輸入して香港にてレットルを變更して獨逸製造品として再び上海及支那内地へ販路を擴張して居る故に上海或は各内地へ輸入さるゝ西洋舶來品と稱せられ獨逸品と稱せらるゝものは多くは其實日本品である悲ひ事には歐米人は商買が上手で日本商人は商買に下手であるから同じ日本品でもレットルが變更された丈けで歐米の舶來品として一般の支那人間に信用されて居る此の如く日本人の不信用を招いたのは日本商人の罪で日本人が信用を重んぜず永遠の利益を目的とせないから同じ品でありながら日本商人は其顧客を歐米人に奪はれてお負けに自分の製造した物品で人に金儲けをさして居るナゾは實に馬鹿氣切つた話ではない

か。
 歐米人は何事にかけても恕才なく併かも熱心に調査するから支那人の嗜好に投ずるとは上手であるが日本人は同文同種の人間で昔から互に往來もして居るから支那の風俗人情習慣等に就ては比較的幾多の便利を有して居るので日本人が支那人の嗜好に投ずる物品の製造では巧みであるから随分巧みに支那的に出来て居る物品が多いが意匠と製造とは巧みだが商買が下手であるから何日も人に金儲けをさせて自分は刎ね除け されて居る故に今後の日本人が同文同種で風俗習慣人情の比較的 似近接して居るから此特有の便利と日本人の長所とを利用して一 風俗習慣人情を調査して一層支那的に支那人の嗜好に投ずる物品を製造して商買の方法を更て歐米人に倣ふて若々清國經營に着手せば清國に於ける我雜貨店の頽勢を挽回して將來大に有望となるべし兎に角清國に於ける日本の雜貨店は日本人の事

業として一番多い去れば今雜貨即ち内地の荒物屋と美術品舶來品等の販賣店が上海に何軒あるかといふと左の七十七軒で日本人の事業としては一番多い

上海の雜貨店

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|------|---------|----------|----------|----------|--------------|--------|----------|---------|-----------|----------|---------|---------|---------|--------------|----------|---------|------------|----------|-------|-------|---------|---------|--------|---------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|---------|-------|-------|--------|
| 虹口老匯路二三四 | 英界南京 | 虹口南潯路二〇 | 虹口寶克脫路一一 | 虹口文路一一八五 | 虹口天潢路三六五 | 虹口西華德路言六古賀洋行 | 虹口百老匯路 | 虹口寶克脫路三二 | 英界三洋經橋西 | 虹口百老匯路二四七 | 虹口文路一一八四 | 虹口吳淞路九六 | 虹口吳淞路八二 | 虹口文路六一八 | 佛界三洋經橋監平里街内二 | 虹口武昌路五六一 | 同文路三二二六 | 同百老匯路二四五、六 | 英界湖北路二三五 | 佛界老地門 | 外灘家木橋 | 佛界城門濱五八 | 虹口日路一八三 | 同文路一二七 | 同北蘇州路一九 | 兒玉 團造 | 土井 伊八 | 土橋 文造 | 村井 駒次郎 | 村上 三三 | 山口 宇平太 | 古賀 庄作 | 喜多 太助 | 守田 芳太郎 | 和田 松太郎 | 石原 榮次郎 | 植木 太一郎 | 藤原 フミ | 村井 ヒサ | 樋口 真助 | 長手 彌三郎 | 松永 勝次郎 | 三宅 嘉市 | 須藤 國三郎 | 鴨川 チイ | 大木 誠一郎 | 佐藤 文雄 | 吉田 忠左衛門 | 野村 セツ | 桑野 ニヲ | 志波 徳次郎 |
|----------|------|---------|----------|----------|----------|--------------|--------|----------|---------|-----------|----------|---------|---------|---------|--------------|----------|---------|------------|----------|-------|-------|---------|---------|--------|---------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|---------|-------|-------|--------|

同百老匯路一一二	岸田謙三	佛界島江路價五三	宮地保藏
同 二二五	同 支店	同文路一二四 艦船賣込	富江外次郎
同南潯路三八三	同 支店	虹口密勤路二〇五同	上淵 豊藏
英界福州路一八九	大木誠一郎支店	同	同 上石川松太郎
虹口文路二四九	小田休次郎	同百老匯路二四八(爲政洋行)爲政	恒夫
同吳淞路二八一	大石 子	虹口乍浦路一三九	鈴木友三郎
同文路二四	安田米太郎	虹口文路二二六八(西田支店)加藤	清三郎
同密勤路南里三〇三	木戸作次郎	虹口文路 (古賀洋行支店)	古賀 淺吉
同文路二二六四	西田留太郎	虹口斐倫路三七 艦船賣込	出田正太郎
同吳淞路三一三	堀 福太郎	佛界大島路與聖街口五六	大塚兼治
同吳淞路一三六七	藤原常次郎	虹口文路五 艦船賣込	松山 珠磨
同吳淞路二八一	成田彌三郎	同有恒路四一 同	上 柿原梅吉
同吳淞路〇八九八	淺見卯之助	虹口文路二三	稻田繁太郎
同恒路六	宇藤紋三郎	英界東棋盤街三四	山田國太郎
同文路二二三二	端山喜三郎	佛界榮市場一三九	川添佐兵衛
同文路二二四四(平田洋行)	平田甚三郎	虹口天津路五六七	植木 カキ
同海密路一一一 艦船賣込	武田米太郎	英界東棋盤街六A B(北福號)角田	芳太郎
同文路賣克脫路一〇	松尾亥三郎	同三洋經橋	(小泉洋行) 小泉 義一
同文路一七九 (萬屋)	植木 カキ	同湖北路二二二(朝日洋行)	辻 源助
同文路二三五九(艦船賣込)	阿部 茂郎		

虹口漢壁禮路八	園田 トシ	虹口文路第三三號 艦船賣込	金子喜三郎
虹口吳淞路一一(艦船賣込)	小崎又三郎	同文路二二六四	諸隈光四郎
虹口密勤路二〇五(同上)	淺井吉次郎	同乍浦路七	河井平次郎
同	(同上) 近藤權太郎	同乍浦路三八九	富島 佐吉
英界阿南路四二 (樂善堂)	小林 新六	同天津路五三 (飯田洋行)	川勝理三郎

◎上海の公園

上海は東洋の貿易市場なり面白く遊ぶ所にあらず面白く金儲する土地なり故に商業の機關は備はつて居れども娛樂遊山の設備に乏し随分遊び好きの歐米人も多く風流閑雅を説く支那の土地であるから公園も嘸ぞ立派であるふと楽しんで居たが歐米人もまだ遊樂の設備に手が届かぬと見へ支那人の風流は机上の風流で支那人は俗中の尤も大俗たることが彼等が唯一の遊び場所として居る支那の公園で證明せられて居る上海に歐米人の設立に係る公園二ツと支那人の設立に係る公園二ツと都合四ツの公園がある歐米人のは一ツは米租界で一ツ

は米租界にあるが何れも支那人の入園遊覽を禁じて居る而して支那の公園は外人の遊覽勝手自由で随分支那人は馬鹿にさて居るが自分さへ好ければ同胞の權利問題ナゾハ一切お構いなしの國民であるからソナ事には一向平氣である。

米租界の公園は虹口文路に二三千坪の空地が有て樹木もなければ築山もなく只一面の芝生に二三の小亭(吾妻屋)があつて四五脚の共同椅子ある計りで一般に之をベビー公園ベビーパークと稱して小供の遊び場所にして居る故に之れはホンの名ばかりの公園である米租界の公園は公園橋ガーデンブリッジを渡つて左手の河岸に鐵柵を回らして一ツの噴水器と一ツの音樂堂があつて茲には多少の樹木もあるが日比谷公園の三分の一位で暫しの眺もなければ慰ふべき木蔭もなく前は川に臨んで居るが川の上下に通ふ汽船の黒煙で包まれて居るから山水風光に馴れたる我々日本人の目には何等の趣味快樂を興へず日比野の公園に其没趣味を鳴ら

したる余等は上海の公園に歩を入れて始めて愛しと見し世を今ぞ戀しきで其没趣味に驚かざるを得ない。

支那の公園は上海市中より西南約一里の地に在り一を春園と云つて其中央に二百坪餘りの洋館があつて支那料理屋がある其前に日比谷公園の噴水池位な池水があつて彼地此地の芝生に鴉片室喫煙室其他支那の球轉がし場がある其隣地には又千坪餘りの芝生があつて其中央に三百坪の池水あり之にウォーターシップと云つて三丈位の高臺から船を滑らして池水に急轉直下するの仕掛けになつて居る歐米のお轉婆娘等が運動旁々春から夏にかけて之を試みるものが随分あるとの事外に休憩すべきお茶屋もなければ別に之れとて觀るべきものなく只一面の芝生に運動を取る位の事で支那人の風流もホンの文字上の解釋に止まりて其没趣味の甚しきには驚かざるを得ない。夫れから十町計り行けば愚園と稱して以前は某の庭園であつたの

が今は拾錢苑の木戸錢を取つて縦覽せしむることになつて居る庭内は廊下傳ひに池邊に沿ふて喫煙室に往くことになつて居る園内には寫真屋もあれば小さな演舞場もあり池邊を廻らすに巖穴的人造石を以てし八ッ橋等の風流を装へども水死して蟬蛸を生じ烏雀亂棲して草木育たす自然の風致なく山水の眺なく支那人の常として屋外の趣味に乏し翠帳深き所美人に戯れ一室の鴉片臺に醉生夢死する外何等の妙致風尙なく山紫水明の風光に富める日本人の眼には終に一日を忘るゝの地なく加ふるに上海の市中は百万の竈口百万の煙突より吐き出す石炭の黒煙は市中の空氣を汚かし市中を往來せる人の鼻孔は眞黒となり擔端樹梢に飛び交ふ群雀の色は薄黒くして茶褐色の斑點を識別し能はざる程なり以て市中生活の不愉快さ加減を察すべし去ればとて近郊に一日掛けの散策を試むべき景勝の地なく神社佛閣に詣すべき所もなければ犬を牽ひて跋渉すべき山河もなく一望万里の

平野を點綴せる田舎の村落は豚小屋の如く穢多村の如し腰を掛けて一杯を傾くるの茶店もなければ煙草火を借るの席もなく實に上海に居住せる風流才子の不自由不愉快は察するに餘ありと云ふべし去れば偶々の保養を芝居寄席等に取りらんか言語を解せざる上に人情風俗を異にせる悲しさ其泣く所笑ふ所舞ふ所止まる所何等の妙味を解せざる我々日本人には又何等の面白味も感せざれば何等の愉快をも與へず去ればとて一家團樂家庭の趣味に乏しく家庭の遊藝家庭の娛樂に欠乏せる我々日本人に取りては一尉の苦痛と云はんければならぬ市中屋外の快樂市外近郊の散策市の内外共不愉快に閉ぢられつゝあるが上に又室内の保養家庭の娛樂に快樂を取る能はざる我々日本人は將た何れの所に其精神的快樂を取るべきか我輩是に於て長大息すべき墮落の傾向を發見した即ち比較的精神薄弱なる人々は餘義なく肉体的酒色の快樂に走るであらふと云ふ事之れなり現に上海人にし

て青樓に上りて酒色に耽溺しつゝあるものゝ多きは事實で在上海の日本人中にも酒色に耽けるもの多く上海に於ける日本の料理屋は即ち日本人が最大快樂を縦にする肉体的酒色の天國である随つて上海の日本料理屋の繁昌すること夥しい。

◎上海の日本料理屋

夫れ此の如く上海の日本料理店は日本人の最大快樂を縦にする酒色の天國である故に上海の料理店は日本人の公園にして藝妓は其公園を飾るべき解語の花である去れば茲に先づ日本人の公園たる上海の料理店と公園を飾れる此の藝妓とを紹介せざるを得ない今上海の日本料理屋はと云へば。

- 虹口乍浦路四〇一(藏村屋) 藤村 アサ
- 同 一六七 (月酒屋) 宮本 イッ
- 同文路二六三 (都亭) 村山 一太郎
- 同武昌路四五〇 (三好館) 光好 虎吉
- 同乍浦路 (醉月) 長佐 ヲス
- 同文路二六四 (六三亭) 白石 六三郎

- 同 一一七 (西洋料理) 吉川 トヨ
- 同斐倫路三六一(西洋料理) 山村 兼吉
- 同南浜路二七 (當時屋) 當時リヤウ
- 同四可子路二九八 秋田 戸一
- 同西華德路三二五七(萬歲館) 春本 市三

の十一軒であるが何れも西洋館と支那家とのアイノコ建(雜種兒)で其の内部の雜作は日本流に模様替したのが多い其れで外部から見ると高塚の下に入口のある土藏に入^はいる心地がする其土藏の入口に何々料理屋何々亭の瓦斯燈があるから料理屋と云ふことが分かる位で大抵は入口が帳場で其横から二階へ登ることになつて居る何分西洋とチャンコロの合生兒建だから何れもガラス窓に開き戸で椽側傳ひに庭の樹木を眺める様な純粹の日本家はないをとして天井が高く、高い天井の壁に間に合はせの床臺をくつ付けて唐人風の怪しき軸に新聞附録の石版摺の扁額ナゾが先づ室内の飾りで大きな廣間を小さく幾個にも仕切つて天井は行き扱であるから隔をした唐紙襖の工合は何の事はない恰度緞帳芝居の道具建ての様でペンキ塗りの床柱に手細

工の生け花ナゾがブラ下つて居るから夏でも櫻の花を咲かせて居る座敷も日本造りでないから部屋の隅には見掛けぬ半端の細長い燈もある凡ての装置は和洋折衷で日本内地の贅澤屋には直ぐ非難の始まることは免かれぬが肴なんかの料理の種は多く長崎から来るそうだが上海近海の魚類は不味いので牛豚鳥の肉類を使用する西洋チャン日本折衷の料理屋を出すことが多い酒は矢張り日本酒で客も日本人なら藝妓も日本人で取り持つ仲居も矢張り日本人だ。

料理屋は何れも似寄つたものだが六三亭は大奮發で坐敷の大修繕を施したから之れが一番奇麗で二三十人のお客が出来る廣間があつて上流の先生方が出入するからお客種が好いとの評判である料理は壹人前凡そ壹圓五拾錢で藝妓の線香が二圓で約二時間だから壹時間壹圓の割になつて居る坐敷料も藝妓の祝儀も御心配に及ばない其上に御勘定は月末拂であるから高い様でも安いものだとセツセと鼻毛を

伸ばして通ふて居る。

所が之れが御茶屋で御愉快筋を極め込ふと云ふお客側の案内手引だ
が去れば上海で料理屋を開店しよう云ふには何程の資本があれば
營業出来るか先づ五間か六間の二階造りの合生兒建てで上海の中等
料理屋では約左の計算になる。

料理屋開業豫算

收入之部

一金五百十圓

内 譯

金四百五十圓

金六十圓

支出之部

一金參百五十五圓五十錢

内 譯

金二五九十三圓五十錢

内 譯

一日一坐敷三人宛三組即ち三坐敷三十日分料理費上代
一日五時間宛として四分の手敷料一日二圓一ヶ月分藝妓より
の手敷料

上海の日本料理屋

上海の日本料理屋

三十五圓	一ヶ月家賃
二十圓	コック一人給料
八圓	女中二人給料
五圓	ボーイ一人前同
壹圓五十錢	水道費
壹圓	仲間積立金
參圓	巡查及掃除賃
拾圓	工務局納酒税
拾圓	一ヶ月瓦斯代
二百五十圓	營業費及雜費
五十圓	掛金即ち未拂損失額
拾貳圓	別項固定資本及創立費六百十圓に對する利子年二割として一ヶ月分
	一ヶ月純益高

金六百十圓
内譯
三百圓
四拾圓
五拾圓

固定資本及創立費
諸道具買入費
家屋讓受賃
工務局保證金

拾圓
貳百圓
拾圓

仲間金(料理屋組合費)
一時豫納金
模倣替家屋修繕費
瓦斯會社豫納金

料理屋營業開店の豫算は大體此の如きもので固定資本や營業に關する豫納金等は前記の如く六百拾圓を要する之れに月々の運轉資本が三百五拾五圓五拾錢合計九百六拾五圓五拾錢の資本によりて毎月五百拾圓の收入あり前記收支差引百四圓五拾錢之を總資本金九百六拾五圓五拾錢に割り當つれば月壹割二分の純益になる水商買と云ひながら月壹割二分即ち一ヶ年にて千圓の資本金は取り返へせると云ふ而白い營業であるが其割に餘り成功したものがないと云ふのも矢張り水商買の事故生活費交際費其他人の見へない所に消へ行くものが多いと見へる併し小資本でやれる商買だから此道の達者であれば随分繁昌するとの事である去れば支那で料理屋營業を開かんとするものは大體此標準によりて着手せば大した差違はない後は其人の腕次

第だとは同業者間の實説である。

◎上海の日本藝妓

次に公園の花たる藝妓先生は多く長崎よりの輸入品で大阪廣島邊からもの流れ込みもあれども宿屋料理屋を始め長崎人が先入主となりて此方面に勢力を扶殖して居るから藝妓も好かへ。悪んバツテンの勢力に壓倒せられ暗々裏に萬事其組合營業頭取何々組長の顔役の指圖習慣に従はんければならない事になつて居る上海は新橋日本橋の藝妓衆と異り悉く自營で抱主に抱へらるゝことは領事館から禁じられて居るからコー見へても自前ですよと威張つて居る而して藝妓の數も領事館では二十人を限度にして居るから目下の處十八人である。

所が海外出稼商人に女房連れのもの少なく上海も女拂底でお負けに女ならでは夜の明けぬ豪傑連であるから女珍らしく女官利のない先生は細綿ふて追つ驅けると云ふ有様だから貳圓の線香廉ならずと雖どもお茶引さへも目を廻はす忙しさ其れであるから上海藝妓は御面相と藝術の割合に内福は余程好いとの事でどの藝妓でもお母親や色男に月々拾圓や貳拾圓宛は爲替を組んで送つて居るだから決して馬鹿には出來ない去れば今上海藝妓の一ヶ月の収入は如何程あつて支出が又如何程あると聞ひて見ると中等藝妓で一ヶ月純益五十六圓である。

高帽洋服の紳士も會社の月給はと聞けば百圓か二百圓で生活費と交際費を差引けば残る金はマイナス位で月末と月初めとは淋しい懐中勘定をしながら吹かし煙草で誤魔化した積りの似而非紳士と歌の文句と手練手管で大の男を手球にあやなし三筋の糸で浮世を渡る藝妓の實收と兩々相照して輕重を量らば藝妓の五十五圓は其日くの衣食住其他頭の先から足の先までの小使錢を差引ひての純益正實の

ことなれば藝妓稼業とて馬鹿には出来ず若しも見らが効ひて意に従へば枕金は二拾圓から五六拾圓だと云ふから驚かざるを得ない併し上海の料理屋では十二時後の客止めは嚴禁してあるから上海藝妓は藝は賣つても身は賣らぬと苦しい瘠せ餓慢をしては居るが内實如何は保證の限にあらすと謂ふべし。

◎上海の日本醫

海外へ旅行して一番困るのは病氣の時である支那の如きは醫術は幼稚で數醫漢法醫計りであるから尙更不安心であるが上海には日本人で醫術の開業をして居るのが十一軒もあつて其れに立派な醫學士が二人も居るから誠に安全なものである其醫師を列舉せば。

- 虹口西華德路一一 篠崎都香佐
- 英界四馬路二四 上 綿貫與三郎
- 同 宮崎徳太郎
- 虹口西華德路三 醫學士 吉益東洞

- 虹口武昌路仁德里二五五 醫學士 佐々木 金次郎
- 英界南京路二〇 齒科醫 片山 敦彦
- 同 二九 同 坂田石之助
- 虹口天濱路一二 同 中 濤 首
- 虹口文路一三、一四 齋藤齋十郎
- 虹口新崑山路一六 中 野 貢
- 佛界周經濱路一〇三一 (分院) 齋藤齋十郎

右の中で一番古くて患者の多いのは篠崎病院で醫術の方は能く分らないが醫者と南瓜は古熟が好いては老古を尙ひ保守的の支那では一層信用せらるゝ方であるから醫術は二の町ちでも氣永に古く居るものが成功して居る併し上海は支那中の文明の數淵でハイカラ連が多いから醫術の成功者が漸々信用を得る様で佐々木病院や吉益病院は近來余程患者が多くなつたこの事である今上海の日本醫師に對する診察及藥價入院料を聞くに佐々木吉益篠崎の三病院では日本人ならば初診も壹圓で其後も診察毎に診察料は壹圓づゝである藥價は一日

分二十錢分で外用之に準ず入院料は三圓から四圓五圓で普通手術が二圓以上コロ、ホルムを使用する大手術は三十圓以上往診料は三圓以上五圓以下との事である支那人及外國人に對しては診察料は二圓宛往診が城内では七圓以上藥價は一日分四十錢外用之に準ず入院料は四圓から六圓まで普通手術は四圓以上大手術は四十圓以上との事であるから外國人は日本人の殆んど倍額になつて居る併し醫師に頼めば少しは安くして呉れるであらふと思ふ夫れに佐々木吉益篠崎等の醫師になれば三井物産正金銀行郵船會社上海紡績大東汽船等の會社或は大なる店舗等よりと特約して其顧問醫となることがあるから之れは豫算外の收入であるソレに支那人の習慣として病氣が全快すれば全快祝の御禮として少きは五圓十圓多きは五十圓百圓の封金つひせんして持つて來るから支那人の顧客に信用を得れば診察料藥價等の金拂ひも好ひから支那人患者の信用を得ることを第一努めなければならぬ

そうだソレで上海で相當の信用を得て相當の收入が出来るまでは開業から遅くとも三年間は喰込があると覺悟せんければならぬ而して開業に要する醫師の資本は家賃が四五十圓で器具機械の外に少なくとも一千圓の資本を要するとの事で藥の原料は上海の歐米人の藥店では非常に高いから高價の藥材や多量の原料は悉く日本より輸入することになつて居るソウだ看護婦に書生に車夫女中ボーイ等の給料其他の雜費難用等は其人によりて一様でないから之れは經驗ある専門の醫師の手心にお任せするとして次に産婆の事を記することとせん。

◎日本の産婆

女の大役は妊娠のお産である故にお産の時に産婆のあるとなひとは産婦を始め一家族の齊しく心配する所で上海では。

虹口乍浦路渡邊秀之助方

菊地イセ

同西華徳路三五八
同 文路一九七
同 乍浦路六二
同 吳淞路二八

高田シキ
野邊ユノ
山田マシ
宮崎ヒサ

の五人で相當忙しいとの事である而して産婆の収入は一回の診察料は壹圓で出産料が拾圓であるから相當忙しい商賣であるから大抵は病院附になつて平素は普通患者の看護婦の代理をして居る先づ職業としては好い方で産婦の境遇によりては種々の祝儀や贈物等の餘分の収入もあるから兩親位は樂に暮らせることが出来る上海はただよゝが内地へ往く婦人方が妊娠の時は實際困るのは産婦のないのである。

◎賣藥事業

世人口を開けば支那の賣藥事業の有利なるを説く我賣藥は果して支那に於て有望なるや否や試みに清國に對する我賣藥の輸出並に清國

より我國への輸入高は果して幾程なりやと其表を作つて見ると。

賣藥々々材輸出入額年表

年號	輸 出 高		輸 入 高		▲印ハ輸出超過 ○印ハ輸入超過
	内 國 産	外 國 産	内 國 産	外 國 産	
36	146,470,890	28,221,540	1,539,000	80,237,070	92,919,360
35	134,274,719	33,598,620	4,341,000	86,926,020	85,493,210
34	18,119,960	27,243,260	99,071,000	81,121,230	23,551,320
33	51,065,520	9,323,850	391,510,000	83,529,270	26,153,000
32	48,212,730	9,326,470	45,000	74,230,890	17,696,190
31	31,104,570	6,609,590	1,224,000	91,418,460	53,716,540
30	30,596,780	2,668,570	28,000,000	57,337,300	23,351,950
29	31,098,640	27,541,300	0	51,547,240	17,894,470
累計	550,943,800	133,728,120	3,972,650	606,647,530	36,868,280

此表で見ると三十年の内國産の輸出高が三万〇五百九十六圓七十八錢外國産では三千六百六十八圓五十七錢即ち輸出額では三万四千二百六十五圓三十五錢之を最近三十六年度の内國産の輸出額十四万六千四百七十圓八十九錢外國産の輸出額二万八千二百二十一圓五十四

錢即ち此輸出額十七万四千六百九十二圓四十三錢に比すれば實に十四万〇四百二十七圓〇八錢の増加となり三十年度の賣藥輸入に於て内國産が二百八十圓外國産が五万七千三百三十七圓三十錢即ち此輸入總額が五万七千六百七十三圓三十錢となり之を三十六年度の賣藥品輸入額八万七千七百七十三圓〇七錢に比すれば二万四千五百五十五圓七十七錢の増加となる而して三十年度の輸入超過額二万三千三百五十一圓九十五錢を三十六年度の輸出超過額輸万二千九百十九圓三十六錢に比すれば輸出入總額の上に於て差引實に十一万六千二百七十一圓三十一錢の増加である而して三十六年度賣藥輸出額十七万四千六百九十二圓四十三錢を三十六年度の我清國貿易輸出總額六千四百九十九万四千七百七十七圓六十四錢に比し其藥品藥材輸入額八万七千七百七十三圓〇七錢を我清國貿易輸入總額四千五百四十五万八千〇五十七圓四十二錢に比すれば殆んどお話しならぬ僅小額で更に同年度の

輸出重要品中の銅の三百六十二万八千六百六十八圓六十八錢及綿織絲の二千九百三十三万八千三百六十六圓五十九錢石炭の八百三十一万三千三百七十四圓二十三錢等に比すれば清國に於ける我賣藥事業の微々として振はないことが分かる然しがなら順みて二十九年の賣藥藥材輸入超過一万七千八百九十四圓四十七錢に對し三十四年度の二万三千五百五十一圓三十二錢の輸出超過に比較れば四万四千四百四十五圓七十九錢の増加となり更に最近の三十六年度の輸出超過九万二千九百十九圓三十六錢に比すれば十一万〇八百十三圓八十三錢の増加となり輸出入の關係に於て輸出超過の順境となり年々増加の實蹟を有するに於て清國に於ける我賣藥事業の有望なることが之れで推知されるであると思ふ。

殊に清國に於ける賣藥事業の有望なるは清國は他國と異なり醫術は極めて幼稚にして多數の人民は賣藥によりて生命を維持し居る有様

未だ醫術治療の時代に進む能はずして賣藥時代に在るを以て我賣藥家が醫術製藥共文明的研究の結果を應用して至適の良劑を製出し之に支那各地方の歴史習慣人情風俗を參酌して清國內地に其販路を擴張するに至れば同事業の成功は必然である殊に日本内地の製藥は内務省の方針規定に於て種々の制限を附せられ至適の藥材原料を使用して疾病に對する良劑名藥を製することが出来ないが支那では製藥上何等の制限なく自由に放任して如何なる製藥を爲すも自由なれば激藥を至適の分量に加味調劑して疾病を治療し人命を救済することが出来るから我國に比して非常の便利を有して居る去れば醫術藥劑研究の結果により人の疾病治療に對する至適の藥劑を製造するに至らば其効驗著しくして支那人の賞賛信用を得て之によりて販路は益々擴張せられ大に利益を得ると同時に其國民に對しては又大なる仁術として貢獻する所は決して尠からざるべしと思ふ。

去れば今我賣藥家が先づ上海に於て如何に販路を擴張しつゝあるか上海に於て同事業に従事せるものは岸田吟香氏の樂善堂篠田宗平氏の濟生堂越中富山の丸三洋行其他安江稻治郎渡邊秀之助辻源之助の三氏にして樂善堂濟生堂丸三洋行を除くの外は微々として振はず殊に樂善堂の如き岸田吟香翁が往年獨得の商略を講じて一時は非常に隆盛になつて清國各地に支店を出して吟香翁の名は噴々たりしが翁老年に及んで事業亦振はず今日に在つては月々二三百圓の賣上高に過ぎない而して日本の賣藥屋が支那内地に賣り廣めるに就ては如何なる方法によりて爲しつゝあるかと云ふに我内地の賣藥店の如く固有の賣藥店を取次店にして居るのではなく支那の雜貨店或は支那内地に於ける日本人の雜貨店に托して所謂委託販賣をさして居るので支那固有の賣藥店は支那人同士でも決して委託販賣などの取次をしないナゼかと云ふと支那は古來有名の賣藥國にして四百四病に對す

る幾多の良劑名薬は悉く自家にて製造し他店の賣薬を取次くが如きは其家名を汚がすの習慣ありて假ひ之を取次がしむるも偽造模作の恐れありて何々大薬房は一あつて二なしと稱し支店をも設けざる位のものなり殊に支店は古きを尊ぶの風あり賣薬に於ても祖先傳來の良薬家傳の妙薬ありて其店も老舗と稱し外國の新薬を排斥するの風があつて之を委託販賣せしむるも斯かる習慣を有せる支那人は之を購求しないのみならず假ひ之を購求するものがあつても外國の新薬の爲に古來久しく行はれつゝある家傳の妙薬も之が爲に顧客を失ひ販路を奪はれ折角の有益の賣薬も口錢薄き外國品の爲に壓倒さるゝの恐れがあるから決して日本の賣薬を取次しない故に止むを得ず支店の雜貨店或は日本の雜貨店に托して販賣せしむることになつて居る。

而して何事に限らず支那人の信用を得ることは頗る困難で其信用を得んとするには少なくとも二三年の歳月を待たなければならぬ其代はり一旦之を信するに至らば何人が説ひて茶々を入れても決して其信念を翻へす様なことはない故に初めは暴利を貪らずに氣永く従事するの考が必要である。

若しも彼等が一度其薬によりて自己の疾病を救はれた時には直に其親戚知己友人及近隣の人々に到るまで之を知らしめ若し同病に苦んで居る人があらば自ら購ふて之を贈り以て其効果を誇つて居る習慣がある而して支那では薬を贈るのを仁術として死の靈を祭る時にも生前に用ゐし妙薬良劑を施與するの一事は一は以て亡靈を慰め一は仁術として郷人に誇るの風がある故に實効の妙薬にして一たび出づれば彼等が一種の廣告屋となりて一般に知らしめるから自然に信用を得ることになる。

日本では賣薬屋と云へば山師の如く無効の薬品に有る度けの効能を

並べ立て諺にも賣藥屋の効能書と云ふが如く其効能書の割合に効能あるもの少なくお負けに藥九厨倍の暴利を貪りつくあるを以て多少世人の排斥を受け居れども支那に於ける賣藥屋は一種の仁術として其賣買師に於ても一種高尚なる事業として一般の社會から尊敬されて居る故に内地へ往つて立派な賣藥屋を見ると店の趣向が何となく神さびたる心地して金銀朱青を以て櫻房を粉飾し顧客患者をして神藥の難有味を感せしむるの風あり決して我國の賣藥屋の如く店頭に陳列して普通の商品の如く取扱ふが如きことなしと云ふ其客に賣るに於ても何となく神威を込め恭しく之を授けると云ふの装ひが必要で我國の賣藥屋の小僧がビョコ／＼頭を下けて客の歡心を迎ふるが如きは賣藥屋の禁物ではあるが又餘りに無愛想にして客に惡感情を抱かしむるが如き舉動は元より注意せんければならぬ又客の來つて藥を求むるものがあつても先づ眞患者の容体を尋ね然る後適當と思

惟さる一種の藥を出して之を與ふべし之を日本流に我店には之れ之れ種々多様の藥を有せりとて廣告的に其種類の多きを示して暗に其盛況を誇るが如きことは大に注意せんければならぬ何となれば疑惑心迷信に深き彼等は徒らに其取捨撰擇に迷ふて終に一品だも購求せずして歸つて仕舞ふの恐れがあるからである。

其疑恐の深い一例は一の賣藥も先づ其店員をして服用せしめ次に通譯者にも服用せしめ原料は何々なりやと問ひ而して後に自ら買ひ求める位にて飲みさしでは失禮だと思ふて別の新らしい藥を出しても彼等は其呑みさしを望んで其呑みさしの分を購求して歸へる位である其代はり一旦信用すれば道は十里でも百里でも遠しとせずして買ひに來るから一地方の顧客を引受けて中々大なる利益になる而して支那の賣藥屋は決して他店の賣藥を取次がざる習慣にて四百四病に對する各種の賣藥は假ひ他の店に在つても自家製造するの習慣でソ

レは藥品の原料藥材たる種々の草木種々の動物等を培養飼養し居るから之に要する資本は莫大にして薄資家小資本家の以て經營し得べき事業ではない此點に於ても大に内地人の信用尊敬を拂はれて居る次に支那内地に於ける賣藥行商の如きは大に利益ありて面白い事業の様に云ふものがあるが何分行商の事故資本の小さく運輸不便の國であるから澤山の品物を持つて往くことが出来ないから賣れるにしても知れたもので大低は内地旅行の旅行費を儲ける位の行商が多い從來陸軍省の軍事探偵などが政略上行商に裝ふの必要もあり商品では分量目方の小さい方であるからソレに支那内地では賣藥を悦ぶの風があるから賣藥屋と化けたのである中には石炭酸などで怪我した負傷者の傷所を洗ふて一時の治療をしてやつた奴が信用の基となりソレに支那人には由來藥の効能は驗著であるから種々の方法で以て内地旅行をしたから日本人さへ見ると賣藥を呉れと云ふソウだ賣藥

行商には種々の方法もあるソウだが何れも臨機應變で此藥は賣品にあらず只見本として一品二品を持參せしものなれども御望みとあれば特別に分與すると云ふ寸法にて高く賣りつける先生もあるソウだ併し旅費の補助位には好いかも知れぬが之が本業としての賣藥行商は態々日本から出掛けてやる程の事業ではあるまい從來の賣藥行商は旅費の補助か或は他の目的を以て視察する一つの道具にして居るのが多い專業の賣藥行商は餘りないとの事である。

今歐米人の清國に於ける賣藥事業を見るに彼等は内地の清人を相手にせず矢張り歐米人を目的として居るものが多い歐米では醫術と藥を賣るものとは別物であるから其需用決して少くないソレに歐米では醫師の診察料が高價であるから大低の病氣は賣藥店に就て調劑して貰ふことになつて居るので賣藥は案外需用が多い夫れに支那東洋の各病院等に對する藥材原料を供給して居るから更に支那人向の

賣藥をして居るものはないよふである而して歐米賣藥の原料は歐米本國より取り寄せるのであるから高價になつて歐米人でなくば支那の様な生活程度の低い經濟的の國民には不適當でセラバと云つて支那人計りに安く賣り捌くと云ふことは算盤の上からでも出來ないから支那人向の賣藥を製して内地で支那の賣藥屋と競争しよふと云ふものは少ない假ひ立派な賣藥を調劑しても支那人に偽造模作せられて折角の發明も支那人の爲に奪はるゝの恐れがあるから歐米人相手の營業に甘んじて居るらしい又歐米人の賣藥屋は醫術に關する理化學器械及之に要する藥品等を販賣して居るものが多い故に寫真機械とか之に要する藥品とか或は化粧品石鹼其他香水頭髮洋服の裝飾品等殆んど我國内地の西洋物屋の如く賣藥專業のものはない凡て衛生醫術に關する賣藥品を陳列して居るから大に日本の賣藥屋とは其趣を異にして居る而して茲に尤も注意して忘るべからざるは賣藥の賣

れ時は五月から八九月頃までの夏季中にあることで夏は矢張り風邪熱病其他の流行病が多いと見へて夏には何れも買ひ蓄めをして澤山買ふから賣藥家は夏の間一年中の儲けをして置くのである。故に同文同種の我日本人は歐米人に比して其風俗人情習慣其他に於て幾分か接近して居るから我々日本人は此長所便利を利用して緻密なる調査を遂げ以て支那人に適合せる製藥を爲し以て着々内地に販路を擴張せば土地は廣し人口は多し信用ある支那人の手腕家を雇ふて其局に當らしめ巧みに之を使用せば賣藥國たる支那では必ず成功疑なしと思ふ蓋し支那にての賣藥事業は相當の資本を要すること支那賣藥店の實況に照らして明かである廣告の方法は矢張り新聞或は張り紙等を使用するもの多く此點に就ては日本内地と餘り異なつた所はないが日本の如く廣告政略は支那に於て其割に成功すると思へば意外の損失になるであらふ。

◎上海の學校と出版事業

數年前北京の朝廷が八股文を廢して日本及歐米の新文明主義を採用するに至りしより其官吏たらんとし教員たらんとするものは日本に渡航留學するもの日に月に増加し随つて今後の人材を養成し教育せんとする各學堂の如きは競ふて範を日本及歐米に採り學校の組織教科書の如きも日本的のもの随分多く内地各地方に至れば何れも日本教師を聘して數學理化學修身等普通學の普及に努めて居る故に上海に於ても多くの學校は日本、歐米、清の折衷科目によりて子弟を養育しつゝあり今其重なる學校を擧ぐれば。

南洋中學堂 中西成林學堂 達材學堂 東亞善隣學館
敬業業養學堂 滬南經世學堂 上海徒弟學校 海溪學堂
城東女學社 務本女學堂 商業學堂

此等の學校は多くは普通學を教授しつゝあれども敎科書等未だ整頓せざると教師其人を得ざると生徒の智識未だ發達せざるとにより數學も理化學も皆初步にして數學は分數比例に止まり代數幾何の方定式平均迄進むものは稀有中の稀有にして英語は尤も支那人の長所にして其實用的なるには一驚を喫すべし教育其他應接室受付教員室等は何れも日本の學校に倣ふもの多く生徒は小供も居れば壯年もあり其年齢に一定の制限なきより一見昔しの寺小屋の如し而して授業時間には午前九時より午後四時迄とし教員は各々の専門家にして二三の科を兼ねるもの甚だ稀れで随つて生徒の割に教員の數多きに過ぐるは之れ我國の如く教員を養成する師範學校の未だ完備進步せざるが爲め普通學に通ずるものなき結果に外ならず授業料は官立等にて之を要せざるものあれども多くは毎月一圓より二圓迄なりとす又男生徒の外に支那の女學堂なるものあり足の小さい奇麗な束髮美人がゾ

ロくやつて来る一体支那婦人の足が小さいから其歩み方は小供の併かも赤ん坊の歩るさかけの時の如く手を振つて怪しく歩む工合は丸で家鴨が澤山集まつて居る様で頗る滑稽であるが之れが支那人の所謂進歩とでも言つて悦んで居るものであるふ生徒の數は何れも六七十名にて八九人の教員で英語生理化學地理歴史圖書數學修身等の普通學科で中には唱歌等あれども一も家庭學裁縫等女子に必要な科目のないのは頗る遺憾であるが教科書も教員もないから止むを得ないとして生徒は矢張り不揃にて八九歳の少女も居れば二十八歳三十歳餘の奥さん達も居る大抵は十八九歳のもので結婚前のお嬢さんが多い多くは他郷の人で寄宿舎で寢泊りして居るが寄宿料が一月四圓で授業料が一圓から二圓生徒中には足の小さい上品な支那美人が多い所から見ると地方の財産家か或は學者系統の令嬢愛妃である上海でも内地でも中學堂と師範學堂とは先づ我高等小學校に少し

進んだ科目を附加した位な程度で小學堂も別に變つた所はない先の我國の明治四五年頃の程度と思へば間違いない女學生の論文に女權擴張論男女同權論一夫一婦論が壯んで影山英流が此門に随分ある様だ一般の學科教授法に於て實業商業思想の養成に傾いて居るのは流石は商業的國民の學校として我國の學校に比して慥かに好い心掛けではあるが矢張り新學問の傾向が憲法法律的制度改革の先鋒となり人權擴張の急務を叫破する所女權の擴張を唱導する所何れも同一轍に出で居る所は新文明輸入の順序と見へる。

教員の給料は一ヶ月七八圓より十四五圓位にして日本人の教員は七八十圓より百五十圓位内地は之に反比例で支那教員の給料は物價の安ひに連れて安いが日本の教員は不自由の點から却つて内地の方は高い大抵一百圓より三四百圓迄とす支那の學堂が競ふて日本文物を輸入して日本人の教員を聘雇するの傾向あるは大に我教育家政治家

の着目すべき所である。

上海に於ける日本人の學校は彼の根津氏の所管に屬する同文書院と本願寺別院の設立に屬する上海小學校との二ツで同文書院は日清貿易研究生の養成所にして同校の生徒は日本内地の各中學校其他の卒業生にして學力優等の俊才を撰抜して入學せしむるものとみなれば同校出身の人は其成績もよろしく殊に支那貿易清語英語に精通し居るを以て今後の日清貿易界に於ける一要素なり同校卒業生は内地の學校教師官府の顧問會社銀行の店員等に雇聘せらるゝもの多く俸給も五六十圓より二百圓までの間に於て從事し居るが故今後の日清貿易益隆盛に趣くと共に同校の之に貢獻する所決して尠少にあらざるべし現在の生徒は二百六七十名にして教員は十數名之が任に當り居れり本願寺別院の設立にかゝる小學校は専ら模範を日本内地に取り在り上海所住者の子弟を教育しつゝあり現在生徒七八十名教員數名之に

從事し上海在住者の爲に貢獻する所大にして尤も篤志の美譽と云ふべし在上海日本人が完全なる小學校を設立せんとしつゝあるは一再到に止まらずと雖ども何分自ら之に任じて其成功を期せんとする篤志家のなき爲め今に一の小學校すら設立するに至らず以て上海に於ける日本人の程度を卜すべきにあらずや之に比して流石は歐米人なり小學校女學校共宏大の建築の下に設立せられて莫大の經費を投じて子弟の教育を忽にせざる所流石は歐米人なり此學校は多くは歐米人の子弟にして支那人の之れに入るものなく日本人の小供等は往々にして此校に通學しつゝあるを見受けて居る海外で一番困るのは自分の子弟を托すべき日本の學校のなきこと之れなり殊に内地に入れば殆んど絶望のことにして其父母たるものが自ら家庭の教師となり學校の教員となり之を教育するより他に其道なきは如何にもすべからざる事である。

◎出版事業

歐米及日本の新學説が輸入せられてより支那各地の大學中學師範其他小學堂に至るまで此新學説の普及に汲々とし其結果として學生子弟の讀書界に一大變化を來したので此新學説を講ずる教科書類の書籍の出版日に月に増加し歐米人は勿論日本人中に在つても作新社金港堂及東亞公司の如き何れも大資本を以て之が出版事業を起すに至りしは蓋し支那の現代の必要に應ずる商策として尤も有望有益なる事業の一たり先づ其方法として日文漢譯の所謂漢學家を雇聘すると尤も必要にして殊に支那の事情風俗習慣就中現代の支那現代の支那の程度を解釋せる活物を要すること尤も切なるも我日本の漢學家の弊習として徒らに孔孟百家の書に通じ文字章句の討尋に疲れ支那一般の程度即ち現代の支那を考究するもの至つて稀れに日本内地に

在つても可成活動せる現代と遠かり實業的營利の觀念を去り俗塵を脱するを以て漢學派の人格と爲し學派の輕重を問ふの風あるを以て現代の思想と遠かりつゝある彼等は一切世上の物事に迂濶にして一小天地に残喘を保ちつゝ各々天狗を以て任するもの多きが故學者必ず間抜け面の原則は世人の嘲笑に任せて自ら甘んずるの風習であるから今日日本の如何なる書籍を支那に翻譯すれば支那人の嗜好に投し支那人の注意を喚起するかに就ては勢ひ支那人中の學者にして併かも日本思想に適するものを雇聘して之が商略に當る所の事務家と相謀りて出版物の營業方針を講せんければならぬ即ち出版業を營まんとするものは日本の漢家學と支那の學者と商略を講ずる人との三要素は離るべからざる關係を有してをる。

而して出版業が何故に有望なるかと云ふに第一日本の新學説の流行と第二土地人口の多いことが其原因で支那で少し氣受けのした出版

物は一二万部賣れることは容易い話で政治法律經濟の書物を始めとし數學理化學修身其他物質的に應ずる學說紡績製紙工藝品醫術等に要する生産的新學說の出版物の需用尤も多く金港堂の修身兒訓の如きは忽ちにして八万部を賣り盡し其他理化數學の書にして數万部に上りしもの其數を知らずと云ふ位にて其利益配當は四割五割にして尙優に社員職工の慰勞に酬ひて餘りありと云へば支那の出版事業の有望なることは之れで想像が出来るではないか。

今金港堂及作新社等のやり方を見るに何れも創業の際のこととして準備も行き届かず經營の任に當る人物も支那の研究に日尙淺き結果として必定有望ならんとして出版せしもの却つて支那人間に冷遇せられ偶然出版せしものが却つて大當りとなり莫大なる利益を占有することあり殊に支那中學師範小學校の如き各校各々其教科書を異にし居りて日本の如く全國一定し居らざるか爲め日本の教科書を夢想し

つゝありし連中には意外の見當違ひを來たせしことありと只人民多くして適切の良出版物に欠乏しつゝあるは何よりの幸にして若し一たび支那人の意に迎合し其嗜好に投せば需用は一時に勃興して數万部の出版は忽ちに賣れ切りとなることあり之れ局に當る者のゝ現代の支那に通せざる結果のみ故に大資本を投じて各要地に支店を設け各地の習慣人情風俗等を調査し其需用を查察せしめて各地方の支那人に迎合せらるゝ良出版物を出せば其有益なること内地出版業者の比にあらざるべし作新社金港堂は主として日本の小學校中學校師範學校の教科書に倣ひ之を現代の支那程度に翻譯しつゝあるので支那に於ける日本の文明か注入されて日本化する様になれば實に結構な話である今又東亞公司なる一大會社か又起つて之が經營に任せんとす社長は大橋新太郎氏の有力なる一派なれば一層支那の開發に貢獻する處があるであらふ此會社の現はれた以上は我清國經營の上に

一大効果を奏することを疑ふべからざるも只日本の文明を注入して支那の開発に供する事業であるから營利的觀念の前に國家的觀念を有して一時的營利の爲に此好機會を失し其方法を誤らない様にせんければならぬ。

◎ 鶏卵輸入業者

支那で一番成功して一番又失敗したのは日本人の鶏卵輸入業者で競争の結果妙痴奇の活劇を演じて悪摺れ者の破戸漢仲間視されたのは此商人連である而して我國初めて鶏卵の輸入を企てたのは明治二十六年のころであつたが當時は市原商店等が一ヶ年に二三千箱位に過ぎなかつたか二十八年の八月頃から内外鶏卵株式會社が出来之に續いて東洋關西合資會社日本貿易山田商店酒井商店等が業務を開始することとなり一時は七會社の多きに達し其結果同業者間に激烈な

る一大競争を惹き起し折角の有益なる事業も之が爲め漸次衰微に赴きし結果として二三の破産閉店者を出すに至り今では市原、東洋、内外、酒井、日本、山田の六會社店に減じて仕舞つたが内外鶏卵株式會社が始めて上海で輸入業を開始した二十八九年の狀況を聞ひて見ると一ヶ年に約三万箱程輸入したとの事である一箱が大小約三百個入として九百万個の數になる當時の買入相場はと云へば一圓で百八十個の時もあれば二百個の時もあり一粒が一寸五厘から六厘位であつたが其後競争の結果一圓で六七十個まで騰貴したこともあつた然し今では一圓で百個から百二十個位して居る夫れで當時會社の配當は五割から六割と云ふ大利益を占めて居つたが競争の結果と輸入税賦課の結果とで三割となり二割となり一割となつて今では無配當のものが多く中にも二三會社の如きは年に四五百圓の缺損を生じて昔の全盛に比べると今は憐むべき半死半生の有様である。

何故五割六割の利益配當あつたものか五六年の間に缺損を生ずる様な變化を來たしたかと云ふと一ツは競争の結果にも依るべしと雖も尤も大なる原因は彼の一昨年に於ける鶏卵輸入税問題の可決されたので輸入税は二割五分課せらるゝことになつたが近來は戦時税として更に五分を課せられ都合三割課税せらるゝことになつたので鶏卵輸入業者に取りて一大打撃である夫れで今日本へ鶏卵を輸入するに就て鶏卵の原價と其他の運賃並に諸入費は何程を要するかと云ふに假りに昨今の相場では神戸着で三百個入の一箱が五圓五十錢から六圓位として之に要する運賃其他の諸入費は左の如くなる(即ち一箱に對して)

記

一金貳圓五拾錢
 一金壹圓六拾錢
 一金貳拾八錢五毛

上海買入壹圓ニ付百二十個ノ割鶏卵三百個ニ對スル代價
 輸 入 税
 神戸迄ノ運賃

一金貳拾錢
 一金八錢
 一金十五錢
 一金壹錢

石 油 箱 代
 すりおつ四錢五厘、繩代三錢五厘
 海 關 税
 積 込 運 賃

合計金四圓八拾四錢〇五毛

合計金四圓八拾四錢〇五毛即ち左表の如く鶏卵と運賃と輸入税輸出税其他の雜費を合すれば一箱に付四圓八拾四錢〇五毛となる今之を一箱神戸着の相場が六圓にしても一箱に就て一圓十五錢九厘の利益しかない之れに本店支店の家賃店員の給料其他一切の經費は一箱に對して一圓を要するとは鶏卵輸入會社及商店の算當であるが更に此經費たる一圓を控除すれば一箱に對しての純益は僅々十五錢九厘となり之れでは會社や商店が無配當となり缺損を生ずると云ふのも無理のない事である今經費の説明をすると輸入税の三割は其課税の方針は百斤の鶏卵十八圓の代價を標準として之に三割を課税することになり居れり而して鶏卵一兩は約四貫八百として之を斤數にせば三

十斤百斤十八圓の割で三十斤の價を見れば五圓四十錢となる此五圓四十錢の三割即ち一圓六十二錢は卵一箱に對する輸入税で運賃は郵船會社の特約の結果五分の割戻りかあるから此割戻りを差引ひて上海から横濱迄三十錢四厘神戸まで二十八錢五毛と云ふことになつて居る。

而して日本内地に於ける鶏卵の需要は多く新年及舊正月の歳暮等の進上物其他七八月の祭季節には概して多く支那内地の買出しは九、十一、十二の冬季は産出も多く腐敗の恐れも少なく此季節に各鶏卵會社は買蓄かいためをするから値段も高く三、四、五月は産出も少なければも腐敗の恐れもあり買蓄を爲す能はさる故相場も安く概して相場は變化多くして定りなく其日其日によりて各相場を異にし居る有様なれども一ヶ月平均にして圓に百二十位が普通である。

日本内地の出産地は關東では千葉茨城邊で東海道筋では名古屋三河

邊が尤も多いが千葉茨城邊は近來養蠶業盛にして家禽は養蠶を害すると云ふので鶏を飼ふもの少なくなつた結果内地の供給が減じて需用は輸入鶏卵の必要を促かして來たから昨今少しづゝ引き合ふ様になつたこの事である七八年前は會社も一ツで其他に小さな商店一ツ二ツあつた丈けで輸入高も五六万箱に過ぎなかつたが今日では非常に盛んになつて一昨年十二月廿六日より昨年十二月廿五日迄の各商店會社の取扱ふた輸入高は十四万七千三百九十九箱になつて居る其詳細表は左に

自明治三十六年十二月廿六日 至同三十七年十二月廿五日 鶏卵輸入高表

社 名	種 類	種 別	下ノ 關	長 崎	合 計
内外鶏卵株式會社	1,2840	1,2855	3,805	5,195	2,3125
東洋關西會社	0	2,2915	2,240	1,370	2,9523
市原鶏卵會社	1,2730	1,9570	2,720	0	3,5020
酒井鶏卵會社	7,680	7,825	6,980	1,900	24,385

日本貿易合資会社	6,800	7,500	4,200	1,800	20,300
三田鶏卵商店	0	10,954	6,540	550	18,044
計	40,050	32,049	25,485	10,315	147,899

我國の商人が支那人の如く一致團結の力に乏しくして海外で馬鹿な競争をやるのは珍らしくないが殊に此鶏卵業者の競争と云つたら夫れは實に滑稽極まる活劇を演じて居る各會社商店では其社員店員を鶏卵の出産地及其出先に派遣して買出をさす其鶏卵の上海へ入つて來るのは北方ではコーガイ、ターザン、南方ではロンホー、モーシシー、ブートン、コージョー、ツラーシンドと云ふ道筋で此方面へ各會社員店員が出張して船や車や擔き荷をやつて來るのを引張り合ふて我勝ちに買ひ占めに競争をするので此出張員を斥候と稱して此斥候の手腕如何によりて其買入れに非常に損益を來たすのである夫れであるから此斥候には機敏と腕力が尤も必要で各會社店の斥候が互に引つ張り合

ふて一方が圓に百二十だと云へば一方では百十で買ふ又一方で百で好いと競争するから仕舞には金錢上の争でなく腕づくになるコーなると各々支那人の破戸漢を雇入れて腕力で以て其玉屋を連れて歸る可愛ソーなのは支那の玉子賣りで擔で居る荷物を左右前後から引つ張り合ふてやるやらぬの騒ぎであるから大喧嘩の末は玉子屋が命ち空々で逃げ出すと云ふ有様市中の橋の上で此斥候と斥候雇破戸漢と破戸漢とが血を流しての大喧嘩印度の巡查や支那の巡查が仲裁に入るやら打るやら白晝道路の真中で飛んだ活劇を演じた事もあつたコナ始末であるから鶏卵輸入業者とさへ云へば破戸漢と相場が定つて居る甚しいのは吳淞上海間の鐵道の軌道の上で例の如く玉子屋を捕へて引つ張り合ひの大活劇を演じて居つたので勢ひ込んで駛つて來た汽車も之が爲に運轉を中止したと云ふ珍談もある玉子で汽車を止めたとは滑稽ではないか。

玉子屋の競争か此の如き有様であるから五厘の玉子も一時に一錢に騰貴するのも無理のないことで其結果利益をするのは獨り支那人計りであるから日本商人の下手サ加減馬鹿サ加減と云つたらない惻愴な支那人商買に抜け目のない支那人は直に日本の横濱や神戸に掛け合ふて鶏卵の直輸入を企てたが日本内地の鰹魚節屋玉子屋連は支那人だと云ふと完全なものでも一箱の中に壞破が多いとか腐敗が多いとか石油の臭が甚だしいとか種々の難癖をつけて代價を拂はないので流石の支那人も之に閉口して直輸入を止めたから鶏卵輸入業は日本の専有で他に競争者が無いから能く申合はせて馬鹿な競争をせないで一致團結して之に従事せば全く今日の如く失敗も招かないが幾度規約を作つて之を守ることにしても直ぐ破壊はれてしもふて競争になる之が爲め各會社は再々合併して一致團結で支那人に當るふとの相談もあつたが相談計りで何時も纏まらない今に孤立して青息を

吐息まで半死半生の悲境に漸く餘命を繋ひて居るとは之れで以て我商人に一致團結がなくて商買に下手なことが知れるではないか。

◎輸出入品に對する税關の手續

貿易商人が支那税關を経て貨物を他へ輸出せんとするものは先づ其貨物を托せんとする汽船會社に到り船積差圖書と輸出届書とを調成して税關に差出すべし税關では此書類を検査して輸出届書丈けを其汽船會社の棧橋にある検査所に送り其船積差圖書には認章と記して届出主に渡す其所で届出主は其船積差圖書と貨物とを携へて棧橋の検査出張所に往つて貨物の検査を受け船積差圖書に認章をして貰つて再び税關に往つて納税掛に税金を納めて夫れから本船に往く本船に往つてから其船積差圖書を船員に渡して船積證書と引換て貰つて荷受主に之を送つてやれば夫れで輸出の手續が済むのである。

輸入の手續も略は之と同じく頗る面倒であるか其順序は先づ荷出主より受取りたる船積證書を携へて其汽船會社を訪ひ其貨物に對する認章を記さして其船積證書面によりて輸入届書を調成し之に添へて税關に差出すのである掛員は船積證書に認章をして呉れるから又棧橋の検査所へ往つて検査を頼む検査が直ぐ出来るとあれば倉庫の保管者に之を告げて貨物を持ち來らしめ検査が了れば船積證書に認章をして貰つて再び税關へ往つて今度は輸入税を拂ふ輸入税を拂つた領收書に通過證簿及船積證書を添へて差出す係員は其輸入税領收書を收め船積證書と通過證書とを下附すれば夫れで輸入の手續は了はるのである。

通過證書は貨物を受取る最終の引換書にして之を保存し置けば他日該貨物の再輸出の場合には免税せらるゝの利益あり且六ヶ月間は初輸出地にありては現金と齊しく納税の用に供することも出来れば多少の割引をして他人に賣買することも出来るから之れは保存して置くの必要がある。

而して再輸出假へば支那開港場たる上海を経て來りたる貨物を更に他の汽船會社に托して海外へ輸出せんとする場合には其貨物を積み來りたる汽船會社へ往つて荷主より送り來れる船積證書を示して通過證の下附を請ひ掛員の捺印したる船積證書を倉庫掛員に示して貨物を受取り更に再び他へ輸出せんとする托載の汽船會社の棧橋に送つて夫れから又船積差圖書と再輸出届書とに前會社より受取り置きたる通過證とを添へて税關に差出し其通過書と船積證書とに認章を乞ふて更に検査出張所に至り之を示して貨物の検査を受け其汽船會社へ往つて船積差圖書と船積證書と引換へて貰つて更に荷受主へ送付すると云ふことは前の初輸出手續と同様である。

再輸入即ち海外より輸入せし貨物を更に支那各市場へ輸入する方法

も別に前の初輸入する場合と異なつた所がないから略することにし
たいが更に注意を要すべきは税關の一旦許可せし積戻しの貨物にし
て積込の上更に荷戻し撤回せんとするものは其陸揚げ又は倉庫に依
托し或は他の船に積換をするにも凡て税關の手續を経んければなら
ぬと云ふことである而して貨物の積戻しは一晝夜を越ゆべからず若
し一晝夜を經過せば其許可書を出して取消を請求せんければならぬ
夫れからモー一ツ注意すべきことは税關の休日即日曜日大祭日等に
注意して積終りの時間を誤まらざることである凡て此輸出入貨物に
關する税關の手續は頗る面倒にして經驗のなき不慣のものには却つ
て失態を演ずるの恐れがあるから其土地に通關事務取扱業者の有無
を搜索して之に萬事委托するが上策である上海では日本人中で此事
務を取扱ふて居るのは左の三氏であるから不慣のものは之に委託す
る方が便利である。

虹口文路八

左近彦四郎

虹口吳淞路一四〇八 川内敬次郎

虹口西華路三三六二

樋口舜三吉

◎貨物の荷造りと送り状

貨物を海外に輸出せんとするものは其荷造りを堅固にし破壊變色浸
水等の患ひなき様にせねばならぬ我國の貨物は大抵は麥酒箱石油箱
等の空箱を使用するもの多きが爲め或は一種厭ふべき石油の臭氣を
有し殊に税關では或は石油麥酒と誤認し一種の疑念を挾んで之を開
査することがある之が爲に折角の荷造りも破壊され検査の爲に時日
を費やし商機を失し損失を招くことがあるから荷造りは税關を無難
に通過する様堅固に丁寧にせんければならぬ歐米貨物の荷造りは堅
固にして一定し居るを以て税關でも之を信用して開査するが如きこ
となく貨物の運轉は敏捷にして之が爲め商機を誤り損失を受くるが
如き患なからんも我國の貨物は往々其包装中より食み出し或は水に

侵され破壊するものゝ多きは全く荷造りの不完全に依るものと云はんければならぬ。

又此貨物に對する送り状の如きも成るべく其書式を一定するの必要あり歐米の送状には一定の書式があつて荷出人の住所姓名荷受人の住所姓名及其積込むべき船名並に貨物の番號記號個數品名單價總價運賃保險料荷造費手數料年月日等一切の事項は整然と記入され其甲板渡し或は到着の港渡し若くは荷爲替手形を振出したる場合は其金額をも記入し一見之を判別し得るも我國の如きは半紙の送状もあれば罫紙の送状もあり書式に於ても一定し居らざれば字體も亂筆の走り書きであるから之を點檢するに頗る面倒なるが故時としては之を後回はしにされることもあり且信據すべき完全の送り状を添へて置けば税關でも其記入項目の大要を見て貨物の開査を爲さずして關税を徴し貨物の受渡をするから非常の便益がある此點に就ては歐米の

貨物は一片の送状丈けで開査せずに通過するが日本の貨物は送状の不完全の爲めに開査を受けて貨物受取りの時日が遅くなることがある而して海外支那各港への送状は英文で認めるの一番便利で支那の税關吏は多く英米人で英語は商業界の普通語となつて居るから煩はしい日本字よりも英文が却つて便利である送状面の書式は税目の名稱に由り従量税を課せらるべき貨物は其數量尺度を詳明に記入するを要す又同の貨物内に他の貨物を荷造りしたる時は明細書を添へるを要す其他貨物を密輸入し税關官吏を瞞着して脱税を謀り日本商人一般の信用を失するか如きことは同胞の爲め大に慎むべきことなりとす。

◎ 棧橋料と倉敷料

支那で棧橋の事を碼頭と云つて汽船や帆船を繫泊せしむる賃金即ち

棧橋料を拂ふ時は碼頭即ち棧橋にて貨物を授受することを得るのみならず碇泊の日より十日以内に搬出する時は別に借地料を要せない今本邦と支那と關係ある重要な貨物を舉げて見ると其棧橋料は左の如しである。」

石炭	初月の倉敷料共	毎噸	參錢	同	(厚參吋)	每個	貳分
コークス		毎噸	參錢	同	(厚二分の壹吋)	每束	壹分
銅		每担	參分	未	(大袋)	每袋	貳分
板	(厚壹吋)	每束	貳分	同	(小袋)	每袋	壹分五厘
同	(厚貳吋)	每個	壹分五厘	棒	(長及大に従ひ)		參分以上

右は重要品のみであるか他は之に準ずるものなり而して船舶より他の船舶へ積替する場合は其碼頭料即ち棧橋料の半額を拂へば好い又荷揚の時にクレーン其他の起重機を使用して貨物を積卸する場合は左の貨物に對して左の使用料を拂ふものとす。

一噸以下二噸	二兩	三噸以上四噸	八兩
二噸以上三噸	五兩	四噸以上五噸	一五兩

五噸以上六噸	二〇兩	九噸以上十噸	五〇兩
六噸以上七噸	二五兩	十噸以上十二噸	六〇兩
七噸以上八噸	三〇兩	十二噸以上二十噸迄	八〇兩
八噸以上九噸	四〇兩	二十噸以上三十噸迄	一〇〇兩

(右規定外の重量品は特に契約することを得るものなり)

○倉敷料

名稱	數量	每月	十六噸以下の二重俵	壹錢
酸類	每箱	四分	每担	貳分
海參	每担	同	每噸	五分
棉糸	每俵(四百封度)	一分	每噸	五分
綠棉	同	六分	每噸	七分
綿製品(羊毛製品共)每俵或は箱		四分	每噸	壹兩
八立方呎以下の俵或は箱		五分	每噸	貳錢
八立方呎及十四立方呎以下		七分	每噸	壹錢五分
十四立方呎及二十二立方呎以下		九分	每噸	貳錢
二十立方呎及二十六立方呎以下		壹錢三分	每噸	貳兩
廿六立方呎及三十二立方呎以下		壹錢六分	每噸	五兩
三十二立方呎及四十四立方呎以下		壹錢八分	每噸	五兩
銅	十六噸以下の二重俵	每担	壹錢	
セメント	每噸	貳分		
石炭	每噸	五分		
コークス	同	七分		
煉化石	每噸	壹兩		
獸皮	每噸	貳錢		
同(無包裝)	同	壹錢		
塊鉄	每噸	壹錢五分		
日本紙	每噸	貳錢		
板	每千枚	五兩		
米	每千袋	五兩		
小包	同	二兩		
		一分五厘		

棧橋料と倉敷料

棧橋料と倉敷料

百二十二

昆布	大束	每束	二分五厘	麥粉	每バレル	四分	
刻昆布	小束	同	二分	麥酒	每五十二カロン半	二分	
羊毛	每匁	同	貳錢	洋酒	ブランドー酒	每桶	二分
日本蠟	每兩	四	分	油	每樽	九分	
茶	每捆	三	分	葉煙草	每匁	五分	
砂糖	每匁	二	分	(其他ハ之ニ準スルモノトス)			
粗布袋	每大俵	七	分				
	每小俵	二	分				

◎上海の金融機關

貿易に尤も關係ある上海の金融機關は大別して外國銀行、支那銀行の二種とし、支那銀行は又爲替取組を營業とせる票莊、銀莊及錢莊等を云ひ、市内にて銀行組合に加盟して居る者を匯割と云ふ以下試みに之を記さん。

一、外國銀行

外國銀行とは外國人の設立せる銀行の支店又は出張店を上海に有せ

るもので、支那銀行とは密接の關係を有し其貸出に對して外國銀行は共同一致の步調を取つて居る貸出金は露清銀行の四ヶ月を除くの外悉く三ヶ月を以て長期として居る又支那銀行の預金手形を以て日歩貸を盛んにして居るのもあり、荷爲替を組むもありて何れも金銀貨爲替相場の変動に對して其匡正を講しつゝあるが互に一の組合を形成し同業者に關する一般の事務を管理して居る其加盟銀行は左の如し

- 一 橫濱正金銀行 資本金二千四百萬圓
- 一 匯豐銀行 資本金一千萬元積立金二千二百萬圓
- 一 德華銀行 資本金五百萬圓
- 一 麥加利銀行 資本金八拾萬圓積立金百三十二萬五千磅
- 一 華俄道勝銀行 資本金百二十萬磅
- 一 寶樂銀行 資本金二十一萬磅積立金四十二萬五千磅
- 一 中國通商銀行 資本金五百萬圓
- 一 佛蘭西銀行

一、支那銀行

▲票莊 是票莊支那の金融機關中尤も大にして且信用勢力あるもの

上海の金融機關

で大なるものは七八百万圓の資本より成り多くは無利息或は無利息同様の薄利の官金を保管し其報酬として無手数料にて爲替事業を營んで居る而して此票莊は悉く山西人の經營に屬して各地に支店及出張店を有して爲替を本業として資本の貸出をするのは至極稀れであるが一切抵當貸を爲さず利子は月一千兩に對し四五兩より七八兩である云ふから年四分五厘位になる期限は四ヶ月を最長期とし三年或は四年目毎に一回決算を爲すと云ふことで上海計りでも支店は左の二十ヶ所もある。

三晋源、源豐潤、協同慶、協成乾、大德恒、合盛元、中興和、蔚長厚、志盛信、百川通、日昇昌、蔚泰厚、新泰厚、協和信、大德通、蔚盛長、大德玉、存義公、天順祥、蔚豐厚

▲**錢莊** 錢莊には匯劃莊、挑打、零兌の三あり何れも資本は四五百兩より四五万兩の間にありて一定せずと雖も零兌は資本尤も小なり而して何れも兩替と抵當貸付を業とす上海のみにて五六十軒もあつて資本主は重に寧波、廣東、蘇州、紹興の人多く票莊を發行して金融界を補助し之に又銀票、錢票の二種ありて銀票は馬蹄銀に對する手形錢票は銅錢に對する手形を發行して居る。

▲**官銀號** 官銀號とは官金即ち洋關稅及輪船稅を取扱ひ又は錢莊への貸付を業務とす錢莊への貸付期限は皆二日間にして無抵當信用貸とす而して資本金は七八万兩より二三十万兩なり爲替貸付預金を爲すこと票莊と異なる所がない。

▲**公估局** 公估局とは支那各銀行及一己人の馬蹄銀等を秤量及品質を鑑定評價する所にして他の業務は營まない凡て官衙との關係なく全く一私人の商店で其鑑定料のみで營業して居るから危險の恐れがない而して鑑定料は一百兩に對して四十四文五十兩に二十二文十兩以下は七八文とのことである。

▲質屋 支那の質屋には當質典押の四種あり何れも銀行にて融通の信用なきものが衣服器具等を抵當として金錢を借出す融通機關にして即ち日本の質屋と異なる所なし而して當質は資本豊富にして典押は薄資にして下等とす當質典は支那到る所にありと雖とも押に至りては上海の居留地に限るとのことなり其資本高は大抵。

當舖 三十萬乃至五十萬兩 質 十萬兩内外 典 五萬兩内外
押 千兩内外

當質典の流れ期限は十八ヶ月なるも押は三ヶ月にして當質典は流期の延期はするも押は一日も延期しない利子は當質典は一ヶ月百分の二押は百分の五以上とし質入後五日間は利息を徴せず質流れの物品は各地の衣莊即ち古着商に出して賣却することになつて居る而して質屋の開店には先づ四百餘圓を出して同業者四名の保證を以て知縣に出願す知縣は知府に知府は藩臺に稟し始めて許可を得ることにな

り居るが四百圓は其費用として出すもので藩臺の手許へは三百圓位しか入らないとのことである典以上の質屋は同業者間の規約に種々の條件があつて同業者の承諾を得れば隨意に開店するとは出來ない之れは又便利な金融の一機關で日本人中にも昨今三四軒あつて月五分の利子であるか中々面白いソウだ遺線先生何國へ行つても不自由はないことになつて居る。

◎貨幣と度量衡

支那にては一定の貨幣なく其貨幣として通用するものは銀塊及銅錢の二種に過ぎず其外國人と取引を爲す場合には墨其哥弗を以てする之になり居れり其端數を錢分厘に分ち廣東湖北浙江福州香港及日本の小銀貨を以て補助貨として通用しつゝあるが今上海に於ける銅錢の種類を擧ぐれば左の六種となる。

一錢材頭 一卡錢 一市錢 一衣牌 一醬牌

錢材錢とは貸借勘定の時に際し墨銀を銅錢にて勘定する場に用ゆるものなり。卡錢とは各税關にて兩に對して受取る時の銅錢にして市錢とは小賣商買人間に受授する銅錢を云ひ衣牌とは吳服商人等の墨銀の代はりに使用するもの。醬牌とは醬油即ち支那の官醬にて授受するものにして此等の銅錢墨銀相場は毎日午前午後の二回に各錢莊が錢業會館に集會して之を定むるものなり。故に墨銀に對する銅錢の相場は時々刻々に變動して一定せざるも現今にては三十八年五月十日相場錢材頭一兩に付八百文、卡錢一兩に付千百二十文、市錢一兩に付千百三十文、衣牌一兩に付九百文、醬牌一兩に付八百七十文の割合なり。元來支那は銅錢本位なるが故、兩銀に對しては高値を有し日本の一文錢は一圓に對して一千個の交換價格を有し居るも支那にては八九百文内外なり而して墨銀一弗を一元と云ひ其十分の一を一角と云ひ一

角の十分の一を分即ち仙と云ふ分の十分の一を又厘と云ひ其交換相場は變化極りなく一定することなし。此外に彼の馬蹄銀と稱する銀塊あり一個が大抵五十兩にして正貨を以て貸借勘定を爲すには此馬蹄銀を使用することになり居れり。此外に尙各國の銀塊銀貨あれども信用薄く一般に通用し居るは多くは墨其哥銀貨と銅錢である。

貨幣の外に又種々の紙幣ありて就中墨銀手形は上海及長江沿岸其他天津芝罘北京等に行はれ其實外國銀行の一覽手形に過ぎざるも紙幣と同様の効力を有し之を上海紙幣と稱して一般に信用を有して其通用區域も廣ふして支那銀行の發行する銀票錢票と同様の利益を有し居れども上海普通の取引は支那銀行の發行し居る莊票即ち預金手形小切手を使用するの習慣ありて外國紙幣及馬蹄銀を使用することは稀れなりと云ふ。今上海に於ける各外國銀行の紙幣及其發行高を示せば左の如し。

度量衡

百三十

香上銀行	兩紙幣	一兩、五兩、十兩、五十兩、百兩、五百兩、發行額約二十萬兩
	墨銀紙幣	一弗、五弗、十弗、五十弗、百弗、五百弗、同約九十萬弗
渣打銀行	同	同十萬兩
	同	同七十萬兩
中國通商銀行	同	同三萬兩
	同	同四十萬兩
露清銀行	同	同三萬兩
	同	同十萬兩
正金銀行	同	同十萬兩

◎度量衡

度量衡も支那内地到る所に依りて異なりと雖も先づ上海に於ける度量衡より云へば度は之を尺と云ひ量は之を斛子と云ひ衡は之を秤又は戥子と云ふ而して之か製造は我國の如く一定の制限檢定あるにあらず何人と雖も之を製して販賣するを妨けず又之を製造するにも其口径底徑深さ等に就ては實際一定し居らざるが爲め支那人が用ゆる所の度量衡は同一名稱の下に同量同目なりと雖も甲の用ゆる所と乙の用ゆる所とは常に多少の差あるを免かれず此點に就ては誠

に複雑にして我邦人の想像し能はさると多きも之れ尤も注意を要すべき所とす甚しきは米を買はんとするものは自ら任意に量即ち斛子を造り布を買はんとするものは自ら勝手に尺を製し掛目によりて品物を買はんとするもの又自ら縦竪に秤を作り以て自己の利益を謀り其損害を防かんとするに努め居るが故假ひ政府に法定の度量衡あるも政府は強ひて之を勵行せしめず商人も必ずしも之を奉せず各々勝手に之を製造して使用し居るが故之に對する習慣も随つて複雑にして何人も之れには一驚を喫せざるものはない。

上海に於ける斛子には二種あり一を海斛一を廟斛と云ふ其割合を示せば、

海斛の一石は廟斛の一石一斗一升に當り而して五斗を以て一石と爲すが故に海斛の五斗は廟斛の六斗一升到當る割合なり。

更に尺度に就て見るに。

度量衡

官尺 一尺 上海一般に用ひらる
海尺 一尺 同
抗尺 九寸八分 吳服屋に用ひらる
蘇尺 九寸五分 同

寧尺 九寸七分 同
京貨尺 九寸五分 京貨店に用ひらる
木尺 八寸 木材屋に用ひらる
板尺 七寸六分 板屋に用ひらる

百三十二

次に秤目に就て見れば。

(秤名)	(斤量)	(曹平ニテ)	(曹平百斤ニ對スル比較)	用者
曹平	一斤ハ	十六兩	百	清國政府ノ定置所
天秤	同	十六兩	百	上海一般各商人用ユルモノ
新會館	同	十四兩四錢	百一十一斤一二	各業用者多シ
老哥館	同	十五兩六錢	百〇二斤五六四	各業用者少シ
司碼秤	同	十六兩八錢	九十五斤二三八	棉花商棉花を賣ルニ用ユ
公秤	同	十七兩	九十四斤一、七六	同買フニ用ユ
藥陽秤	同	十六兩三錢	九十八斤一五九	油商等用ユ
折秤	同	十五兩二錢	百〇四斤五七五	南貨炒貨業者用ユ
部秤	同	十五兩五三	百〇二斤八八〇	油餅業者用ユ
磅秤	同	十二兩	百三十二磅三三三	各業者用ユ
砵秤	同	九兩六錢	百二十六磅九八四	廣東客商用居多
斷秤	同	十二兩八錢	百二十五斤	肉莊用
燭秤	同	十四兩八錢	百〇八斤一〇八	燭店用

茶食秤 同

十三兩六錢

百十七斤六四七

茶食店用

拔秤 同

廿七兩二錢

五十八斤八二三五

石灰業者用

此の如く支那の度量衡は復雜にして容易に之を判知し能はざるも秤の如きは多く天秤と磅秤とを使用して外國人と商買し居るか故支那人間には此天秤と磅秤との比較換算率は自然に一定して之を暗記し居れば外國人との取引も容易に行はるゝの便利あれども其煩雜困難なるを推して知るべきのみ。

◎上海の商業機關

▲會館と公所

支那商人の設立にかゝる會館と公所とは支那商人の唯一の商業機關にして會館とは同郷者の集團にして假へば東京で云へば山口縣人會鹿兒島縣人會肥前會東北會北陸會近畿會と云ふが如く支那では山東會館山西會館四明會館廣肇會館徽寧會館江西會館と云つて同郷者の

団体である此団体の仕事は同郷人の冠婚葬祭より貧困者鰥寡孤獨を救助し進んでは同郷人の利害問題を研究して同郷人の訴訟を断し政府に代つて訟をも聽けば教育をも謀り政府の虐政に對しては其豫防法を講じ或は政府に代つて徵税を辯じ商人の利害を研究して同郷人の利益を保護し氣派を通じ意志の疏通を謀り互に交情を温め娛樂を共にし慰籍を共有し凡ての利害を研究する唯一の機關である故に同郷者の中で商業上の詐欺を働き同郷人及他郷人に損害を蒙らす失躰者があれば會館は其罪の輕重によりて之を處罰し甚しきは一室に幽閉して食物をも與へず事實的死刑の宣告を受くるものあり或は除名せられ或は煙罰酒罰と稱して酒煙の娛樂を禁ずる様になつて居る而して處罰せられた者は一々同郷人に通知せらるゝから除名でもせらるゝものなら敗徳漢不義者として同郷者間に誰れ一人として之を助けるものがない奉公しよふとしても商買をするにしても何人も相手

にしないから乞食するより外に仕方がない其所になると支那人は日本人と異なり感情の爲め情義の爲め此の如き不徳義漢を助けて却つて自己の信用を失するが如きことはないから其れこそ實に憐はれなものであるコンナ風に會館や公所の制裁力は非常なもので勢ひ不義敗徳の行動か出來なくなつて居る。

公所とは同業者の集團で米商は米商茶商は茶商で互に同業者の利害を研究し利益利權を保護する機關で外國人に對する商略や同業者間の法律規定は皆此機關で決定し保護さるゝことになつて居る故に會館と公所との區別は同郷者の団体と同業者の集團との區別で其取扱ふ事務の性質から云へば會館は領事館の如く公所は商業會議所の様なものである而して上海の會館及公所は支那各地のものに比すれば一番發達し整頓して居るから一番活動して居る今上海の會館及公所の數を示せば左の如し。

會

一浙紹會館 二湖南會館 三徽寧會館 四楚北會館 五建汀會館 六江西會館 七湖惠會館 八泉江會館 九湖州會館 十廣慶會館 十一江寧會館 十二江西會館 十三四川會館 十四錢江會館 十五四明公所 十六京江公所 十七腿業公所 十八三山公所

公所

次に同業者の設立に係る公所は。

一米業公所 二茶業會館 三絲業會館 四錢業公所 五煙業會館 六錢業會館 七花業公所 八茶館公所 九商船會館

此外同業者同郷者によりて設立せらるゝ會館公所を數ふれば六十以上の多さに達すと云ふことである。

▲會館公所の活動

今會館公所の商業機關として活動した跡を尋ねると時々偉大なる現象を示して居ることがある假へば寧波人が露西亞の水兵に殺された結果寧波會館や公所が評議して莫大な損害要償を請求した露國領事は此事を有耶無耶の間に葬らんとしたから寧波人は同盟して露清銀行

への預金を取りつけ露清銀行の發行紙幣を信用せず市中の融通を杜絶することを決議したから露清銀行は一大驚慌を慄起して勢ひ寧波人に屈從せなければならぬことになつた又モトー一ツの例を云ふと佛國人が佛國居留地の道路取り擴げの爲め支那人の墓地を發掘して取り除いたサアソウすると支那人の同盟が起つて佛國人との商賣取引を杜絶し資本の融通を杜絶し彼等に使雇され居る支那人は悉く同盟罷工して大に佛人を苦めた佛國人も之には避易して元の如く憤幕を修理したと云ふことである又一廣東人が曾て寧波商人と米の賣買を約して取引の際調査して見ると一袋に對して二升宛の不足をして居つたら一万袋に對して非常の損害を蒙つた之が爲め一の訴訟が提起されて廣東人の公所と寧波人の公所との交渉の結果廣東人は結局雇人の行爲で主人の知る所にあらず乍併損を辨償して寧波人に謝罪することに決定して漸く事済みになつた。

更にモーターの實例を挙げると上海吳淞間の鐵道が布設せられた時苦力と稱する車夫即ち小車子と云つて一枚輪の車て後から押して行く支那古來の唯一の運搬機關である車夫等が同盟して鐵道破壊運動を企て苦力中より二人の犠牲者を出し其二人が軌道に敷かれて所謂鐵道往生を遂げたソシテ鐵道は人を殺す危険物で現に二人を布き殺したと云ふ理で江蘇省知事及北京の朝廷へ建議して該鐵道の取除けを要求したが彼等勞働社會の勢力即ち一致團結力到底北京政府も之を壓迫することが出来なかつたので終に鐵道を破壊して取り除ひて仕舞つた今の上海吳淞間の廣軌鐵道は其後の布設に掛りて前のは狹軌鐵道であつた。

此の如く何事も一致團結して同郷者及同業者の利益を保護する所謂自治的精神に富んで居るのは皆此會館公所其他の機關の活動の結果で外國商人も失敗して支那人の爲にやられるのは皆此機關の活動の結果である然るに我日本人は既に上海に五六千人も居つて久しく商買に従事して居るが未だ同胞を保護し同業者の利益利權を保護する機關のないのは我日本商人に一致團結力がなくて商略に失敗を重ねて居る理由であるから何とかして上海に是非一ツの商業機關の設備を希望して止まぬのである虹口反路に日本俱樂部があつて加盟金が十圓で毎月五圓宛の會費を徴收して居るが之れは球突きや圍碁の娛樂場に止まりて藝妓やヤンビーのお自惚位の會合所に過ぎない日本人が支那商人の同盟によりて何日も看すくの損害を蒙り支那人の商略が着々圖に中りて莫大の利益をセシメられて居るのは皆此會館公所の活動の結果である實に日本人の用意の乏しいのと一致團結力のないのには慨嘆に堪へない。

◎上海商業會議公所

支那の商業機關としては舊來の會館及公所のみなりしが日清戰役の結果清國が諸外國と通商條約の改訂を爲すや此條約に基き専ら清國商人の到益を保護するの目的を以て當時上海駐在の鐵路大臣盛宣懷が上海の豪商嚴信厚に命じて歐米及我國の商業會議所の方式に倣ふて之が設立を謀りしに嚴信厚始め土地の紳商連は大に其必要を認め終に英租界の江西路に土地をトして之を設立することになつた現今は米租界の北西エロインロードに移轉し其組織は我國の商業會議所に異なるが矢張り議員組織にして上海各公所會館の董事を以て其會員とし選舉の結果寧波人嚴信厚氏を總理會員とし同郷人たる周晉鏞及毛祖模の兩氏を副總理會員とし章程六ヶ條を制定せり然かも今尙創業中にあるを以て此機關が未だ上海の商業に何等の結果を與へしことを聞かざるも支那人の常として除々として今日の會館公所と相待つて商業上の大機關として他日活動すべきは明かならん而して會

員の數は七十五名にして何れも上海にて信用あり勢力ある各公所等の董事なりと云へば其前途亦想像するに餘りありと云ふべし。

◎茶館

茶館は上海に於て尤も繁昌するものゝ一なり而して茶館には普通登樓するものと歌妓の來つて曲を彈する所と商人の來つて商機を談ずる所との三種がある而して商界の同業者が來集する所の茶館は毎日午前午後の二度時刻を定めて集談するか常なり故に上海の棉花商棉糸商石炭雜貨等の同業者は或は碼頭附近にある船舶貨物出入の状態を探り或は同業者間を歴訪して商狀を視察し然る後各自茶館に來集して取引すべきものは取引し賣買を契約すべきものは契約し其日の商略は此茶席に於て決定さるゝもので何れも相場の高低取引の多寡貨物の出入等一般の高況を一椀の茶談笑の間に會得して機先を制す

るの利益は全く茶館の賜にして館員は清商の茲に出入して同業者と
 會して營業上の談話を爲すにより市場の商況に通じ出入商人の信用
 の有無をも知り居るを以て茲に出入する商人に種々の便利を與ふる
 ことあり此等の利便を有するより取引の大なる貨物に在りては相場
 の暴騰暴落は商人に危険を與ふること亦大なるも市場の商況に應じ
 て臨機應變の處置を講じ自己の損失を豫防することも得るなり各國
 の商況相場如きは之を知るの機會なしと雖ども上海の市場面に於
 ける一般の商況は座して之を悉知することを得べく此點に於ては恰
 も我取引所の如き利便を有し居れり而して茶館の組織は多く株式組
 織にして資本金の如きも多額を要せず十數脚の卓子と椅子と茶具と
 の設備と會計と給仕と小使との七八人も居れば充分であるから一時
 に多額の利益を擧げる能はざるも小事業としては繁昌する確實の事
 業なり今上海に於ける主なる茶館はと云ふべし。

茶館	街名	茶館の種類	茶代	來集商人
怡園	(英)五馬路	茶を客に出す	茶一椀二十八文	洋貨商 雜貨商
怡芳	(同)附馬路	同	茶一椀三十五文	洋紗
同春	(同)棋盤街	同	茶一椀二十八文	石炭 木材
北流城	(同)四馬路	同	同 三十五文	棉花商
龍泉樓	南市	同	同 二十八文	土布 米穀
同信昌	(英)大馬路	阿片を出す	同	阿片

故に同業者の來集する此等の茶館は商業家の忽緒に附すべからざる
 ものにして其集談時刻に至れば多きは百七八十名少きも六七十人は
 來集すべく茶を喫し談了はれば何れも歸散して其集談時間は約一時
 間餘此時刻を經過せば忽ち突然として隻影を止めず其集來する一時
 間はボーイも小使も忙殺せらるゝ位である。

◎支那商店組織

支那商店には官辨公記協記共同單獨の五種ありて官辨とは電報鐵道

汽船等の多くは國家事業として經營すべき性質のもので支那では之を歐米流の株式組織に倣ふて組織せるものであるから恰も半官半民的の事業になつて居る公記とは我國の純然たる株式組織にして只支那の株式會社に在りては日本の如く多數の株主より成立せるもの極めて少なく云はゞ日本の合資合名組織の様なるものである協記と公記とは法律又は學理上確然たる區別とてなければも之れも恰も我國の合名組織の如きもので二三人か四五人かの組織である共同即ち官吏や富豪の抱金を利用して資本を出さしめ經營丈けは自ら之に任ずるが或は官吏等が自ら營利の事業に手を出すこと能はざる場合官衙の抱金を以て或事業を經營し經營の局に當るものは實業に經驗と手腕とを有する老練家を使用して一切之に托して自分其利益配當を受くるの組織なり而して支那にては株式合資の組織は日本と異り株主は至つて少數なるが故大資本を運轉使用すること能はさるも此官吏及

富豪の資金を以て經營する事業は資本も莫大にして信用も厚く掌櫃即ち支配人の手腕如何によりて幾程なりとも擴張して事業を盛大にすることが出来るから支那の商店の中では此組織が一番大資本で信用がある此外に自ら資本主となり自ら經營する所謂一個人の商店あるのみにて大体に於ては以上の五種に區別することが出来る。

一、店員と職務

支那では株主のことを股東と云ひ普通の資本主を財東云ふ而して東家とは日本の主人旦那と云ふ意味にして經手又は掌櫃とは我國の支配人の如きもので副經手副掌櫃とは矢張り副支配人と云ふものである又管帳又は賬房とは庶務會計で管銀子的是金銀の出納を掌どり管帳目的は帳簿掛で管寫信的是往復の書信電信を取扱ふ役にして北清の跑街的上海の外場又は進貨とは我國の手代の如きもので商況を探査し顧客を呼び賣買を取極め貨物交付代金の取立等凡て外部の仕事

を取扱ふもので云はゞ交際役の様なものであるから料理屋茶屋阿片屋に出入して商況を報告するものである。學生とは丁稚小僧の謂にして商業見習の爲に雇はるゝもので茶を出したり煙草を出したり火を持つて來たりする給仕である。

而して此等の店員を雇聘するには經手たる支配人は多く株主中より互選するのが通例で副支配人は其支配人の友人知己中より撰擇するものにして支配人の撰擇に一任することになつて居る殊に官紳富豪の出資せる事業には官紳富豪の尤も信用せる年來の友人を以て經手即ち支配人と爲すことが通例で經手副經手は又時として他の商店の經手副經手を兼ねることもある庶務會計手代の如きは東家即ち主人又は經手たる支配人等の推選に依るもの多く學生即ち丁稚見習に至つては經手其他の商員の友人の子弟を使用することもあれども支那の習慣として多くは東家即ち主人公の親戚及同郷者より採用するこ

とになつて居る之れは凡ての秘密を他に打明くるが如き商買上不利益の虞れなきか爲なり又商業上の智識に乏しく手腕なき無能のものを解雇するには支那では端午仲秋年末の三期に於てするのが慣習であるから此期に及へば何れも喜憂の思を爲して居る此季節に解雇をせられないものは次の季節まで使用さるゝことになつて居るから臨時に之を解雇するが如きことはいない夫故大失策をして解雇を豫期して居る者は此季節に近くに及んで自分から暇請ひをして解雇の不名譽を免れようとするものが多い。

又票莊と稱して官の爲替業を營める手代の如きは此情に在りては其雇聘至つて嚴重にして其手代たるべきものは其妻子を質とし其手代が職務を荒廢し解雇せらるゝ時には其妻子を奴隸として使役せらるゝも致方のないことになつて居る而して支店出張店の支配人手代に對しては本店より往々其支配人手代の素行及職務上の成績に就て内

々探偵をして居るから支那の店員は忠實に謹勉ならざらんと欲するも得べからざるなり殊に職工技士の如きは六ヶ年の契約を以て三ヶ年間は無報酬にして只髪結賃か煙草錢と古着の一二枚位で見習をするとになつて居つて餘程の忠實者でなければ技術の蘊奥を授けないうことになつて居る店員の使用店員の職務に對しては支那は日本よりも嚴重であるから支那人の店員は忠實にして信用を重んずることは決して怪しむに足らない。

而して店員の給料等を聞くに經手即ち支配人は一ヶ月三十弗より五十弗副經手は二十弗より三十五弗販房外場は十弗より二十五弗位で之れに花紅銀と稱して決算期には賞與金があるが日本の會社銀行の如く配當金が幾位で積立金か幾位で賞與金が幾位と云ふ風に其率が一定して居らない只だ東家即ち旦那主人の意向によりて決定するもので利益の多い年と利益の尠ない年によりて其額は一定して居らな

いが大抵は俸給よりも多いことがある而して其分配法は支配人は其四分を取り残り六分を副經手以下に分配するのが通例で其又六分を副經手三分販房二分外場進貨一分半と云ふことになつて居る其れで花紅銀即ち賞與金總額が千圓とすれば其分配法はコゝなる。

金壹千兩	此分配	經手の所得	四百兩
		店員の所得	六百兩
	此分配	副經手	三百兩
		販房	二百兩
		外場	一百兩

右は店員一人に付き得る所の分配の割合なるが學生即ち丁稚小僧は此花紅銀を要求すべき権利のなきものであるが時としては其一分位を學生數名に分與することもある。

◎、決算季節と其方法

支那で各商店の決算季は小賣小店は毎月決算或は二ヶ月決算なるも

大なる各商店に至つては三季決算にして其三季とは五月五日即ち端午節八月十五日中秋節十二月三十日の過年節の三季なり此季節に至れば互に損益貸借の勘定を爲し相方の貸借符合さへすれば大なる取引は端午仲秋の季節に現金の取引を爲さずと雖も過年の即ち十二月三十日には必ず現金の取引を済まし若しも此過年節に返済計算の出来ざる人は商人界に非常の不信用を招き其後は凡ての取引を謝絶せらるゝが故過年節は商人の尤も苦心する所なることは我國の十二月節季に異ならず今上海にて此等の習慣を聞くに過年節に二十五日迄に取引を了するものを以て信用の最上等とし廿八日迄に了するものを中等とし二十八日以後に清算取引を了するものを以て信用の尤も下等なるなりと去れば上海の商人等は大抵二十八日まで支拂ふてどに努めて居る習慣がある。

◎、商店の責任

支那の商店が破産する時には其商店は其責任を如何にすべきかと云ふに之れは一個人の商店と株式会社合名即ち協記、公記等によりて其責任を異にし居れり而して一個人の商人にして數十百年繼續して居る彼の老舗と稱する所謂店簾のに名のある商店の破産に對しては債權者は之を急迫するか如きことなく至つて寛大の處置を取れども普通の商店にして危険を冒かし之が爲に失敗するが如きものに對しては毫も假借することなく破産者にして其義務を果たす能はざる時は官衙に訴へても之を嚴罰に處するは支那商人の習慣なり若し破産者にして自己の所有せる財産を悉く出して債權者に一任する時に於ては債權者は其債權の高に應じて按分し以て之を處分するを以て常とす而して經手の責任に就ては經手自ら之に任するものと經手が其責に任せざるものとなりて這は經手の其會社商店に有する地位責任によりて異なるものなり若し經手が其責に任せざるべからざるものとすれば

經手の財産は悉く債權者に譲り渡し股東は毫も其責に任せざるものとす此の如き場合に在りては經手の財産は勿論保證人も其責に任せざるべからざるは支那商界の慣習なりとす此等の點に就て詳細に調査すれば支那商店及經手等の責任と信用は重大にして決して寸時も無責任のことは出來ないから支那商人の信用を重んずるのは決して偶然ではなからず。

◎婚禮と葬式

婚姻は古今の大禮にして又人生の花たり新夫婦が祝筵佳節に侍して互に偕老同穴を約するや人間極致の快樂は茲に在り天地間の愛情は滾々として茲に集まり世界幾十億万の民生をして醒醒の勞を辭せさせらしむるが如き皆此人生極致の快樂を得んとするに外ならず殊に儀式を重んじ典禮を尊ぶ支那に在りては人生の花人間一生の晴れの時

季として華美豪華を極め其儀式を壯麗にする一種の風俗は又趣味ある一の談柄と云ふべし支那にては婚姻を爲すに親と親との許嫁あり媒介者によりて初めて婚を結ぶもあり上流社會にある許嫁者は其婚期に近くに當りて其家相當の結納金を男の方から女の方へ送る大家にありては非常の大金にて中等社會に在りても下等社會に在りても一生一代の晴れの結納金であるから此金計りは身分不相當の大金なるが故殊に支那の女は金高の多少によりて一種の賣買の様になつて居るから自己の敬する理想の美人を得んとすれば其れ丈け多額の結納金を工面せざるべからず之が爲め無資産の男子が美人賢女を娶らんと致せば是非とも其女の要求する金高を儲けざるべからず支那人が海外及各地に出稼して専心蓄財に吸々たるは皆之が爲のみ故に往々意中の美人を得んとして其要求額の半金を前納して殘金は結婚期前何日迄に完納すべしとの約束を爲し彼等が若し失敗の結果殘金の

調達し得ざる時は友人の援助を乞ひ意中の愛娘を奪ふて逃走し以て其の目的を遂ぐるが如きことあり兎に角支那の結納金は我が國に比して頗る過大なるが此の結納金は支那の結婚に缺くべからざる必要條件にして此の結納金の授受を以て婚姻契約を結了することになる夫れから約束が済めば男の方の家人が女の方の家を訪ねる茲に一ツ面白きことは女の方の門番は堅く門戸を閉ざして進來を拒絶し門戸の開放を約するに一定の金額を以てす門外と門内と其の開放料の談判をする門外の男は成可少額を與へんとすれば門内では可成多くの金額を要請する内外相談の上にて相當の金額を授受せば内門に於て又た其の家の下男ボーイ等は同じく拒絶して金圓を要請する其額は中等社會に在りては外門の門番には三圓或は五圓内門の下男ボーイには八圓又は十圓が普通の相場である外から三圓にして呉れと云へば五圓でなければ開けぬと云ひ其押し問答は頗る滑稽にて而して之

れは娘のある下男ボーイの附け目にて彼等の所得なれば彼等は主人の娘の一日も早く他に嫁せんことを希望し居るは無理からぬことと云ふべし。

斯くて益々結婚の期を約せば結婚日には我國の如く新婦の春夏秋冬の衣服は勿論足の先から頭の先までの諸道具を始め新夫への衣服其他生帶道具等一切美々しく飾り立てし嫁御寮と共に新夫の家へ擔ぎ込む之れと同時に豚の丸焼きと生きた雌雄の鶏及鰯ササギを祝の印しるしに送るのは支那の習慣に於て缺くべからざる儀式とす當日の嫁御寮は綺羅を飾り盛裝をなし赤帽子を被り金銀青紅を以て満飾せる所謂我國の御輿様のものに乗つて往く之れが即ち輿入れと云ふものであらふ然るに輿の中の嫁御寮は實家を辭してより聲を立てワアワアと泣きつゝ多くの人に送くられ迎へられて往く新夫の家に着せば新夫は直に手を携へて二階の部屋へ連れ込む他の座敷には親戚故舊友人等の來

賓何れも盛装して卓几に憑りて之を待ち御馳走の出ると共に新夫新婦は出て來りて一々挨拶をする式了れば赤帽子を被りたまふ客の酒宴に侍し銀燭瓏々として長夜の飲を爲す此の如きこと數晝夜上流社會に至りては旬日に及ぶと云ふ。

然りと雖ども這は上海及上海附近の習慣に止まり其他の地方に至れば各々其土地によりて習慣を異にせるを以て一概に評し去る能はざるも婚姻の儀式を重んずることは古今東西同一轍に出るが如し故に如何なる貧乏人にも一定の儀式を挙げ決して内縁の妻ナゾと云ふことなし而して廣東邊に於ては其新婦が既に他の男子と私通し居らざるかを一應身体検査を爲すを以て常法となせりと若し検査の結果既に私通の證據明かなるの時は再び他に嫁すること能はず此點に對する社會的制裁頗る嚴重にして終に藝娼妓に身賣りをせざるべからざることありと一般の風習は婦徳節操を重んずること甚しく中等以

上の社會に在りては決して此の如き婦人に齒せざるを以て多くは寺院の尼となりて一生世を送るの不幸を見ざるべからずと云ふ。

次に人生の花たるお目出度筋に引き替へ人間寂滅最終の悲觀たる葬式のことを記せんか一家に死人あれば親戚故舊友人等生前に親交ありしもの相集りて野邊の送りを爲すは我國と異なる處なし死人を納むる棺は所謂寢棺にして強固なる長方形の箱なり之を人足四五人に擔かせ僧侶讀經の後城外の地を相して三年間は之を假葬し三年の後更に其遺骨を取つて之を寺院又は一定の墓地に埋葬するを以て常とす併かも支那には一定の墓地なくして死者あらばト噬者或は易者に其土地をトせしめ其土地を購ふて之に埋葬す貧者は之を野原に捨てし走禽の喙に委するの慘なしとせず若し他郷に旅行中死去せるものは同郷者の設立に係かる會館公所に托し死骸を運搬する船舶の入港を待つて其父兄親戚友人等は此棺を守護して郷里に送り届け而し

て郷里に於て盛んなる葬儀を營むと云ふ其船は大抵一ヶ年内に年月を期して二三回廻航することになり居れり送葬の際には何れも泣きを婆々と稱して悲哀を表する一種の習慣上之を雇入れ棺に尾して之を泣かしむ中流以上に在りては三人より七八人も之を雇ひ入るゝの習慣なるを以て彼等は號泣しつゝ之を送り居るの狀其餘りに形式的にして一種の職業となし居れりと云ふに至りては頗る滑稽と云はさるべからず其野邊に死の靈を葬らんとするや妻子兄弟親戚故舊其生前の物語りを爲し棺を撫して悲鳴長泣するの狀は人をして又悲哀涕泣禁すべからざらしむ其富豪良家の妻女の如きは悲感哀惜の情極まつて殉死するものさへありと云ふ此の如き場合には烈婦貞女として村間に旌表して人の妻たるものをして之を模範と仰かしむるの習慣あり送葬の際は家鴨鶏其他魚類等を靈前に供して其亡靈を慰むることとなり居れり其四十九日及亡人の祭禮日には種々の供物を爲して死

人の靈と種々の物語りを爲し以て死者の靈を祭ることは何人も怠るべからざる所にして其迷信に深く儀式を重んずるの一事は支那の習慣より甚しきはなく而して彼等は其墳墓に對する觀念非常に強く如何なる事變に際會するも故なくして之を發掘し或は之を他に轉移せしむるか如きことを爲さず彼等は租先の靈に對して其崇りを蒙らんことを恐れ互に墳墓に向つては相侵すか如きことなしと云ふ尙ほ婚姻及葬儀に於て記すべきこと多しと雖ども此の如きの慣習は各地到る所によりて異にせるを以て只余が見聞せし一端を書して之を示すのみ。

◎富籤と賭博

支那人と云へば金儲けに抜目のないと云ふことは何人も認むる所なるが其金儲けに抜目のない支那人に非常な投機心のあるのは實に不

思議である彼等は金儲けとさへあれば其方法を選ばないと云ふこと
し中等以下の人民が大資本を望むの餘り到底普通の事では一生大金
に有りつかれないと云ふ絶望的の人民の僥倖心とが此投機心を起させ
たのではあるまいか兎に角支那に富籤賭博の流行するのは非常なも
ので支那は賭博の國にして其人民は賭博の資本を得んか爲に働いて
居る様で貴賤上下老幼男女を論せず何れも凡ての者を犠牲に供して
勝負事に耽つて居る只に人民が賭博を好むのみならず政府が之を公
に許可して賭博を奨励して居るから我々日本人から見ると實に不
思議で堪まらない。

今政府が公許して居るテケツ即ち富籤なるものは清國到る所に行は
れ大なるものは一等彩票が十萬圓二等が五萬圓三等が三萬圓夫れか
ら一萬七千圓五千圓三千圓千圓五百圓百圓五十圓十圓五圓と當り籤
に夫れくの等差はあるが漢口で發行する富籤は中り籤ちやうりせんの金も多く

信用もある故一般に行はれ其他湖南湖北蘇杭州上海香港福州寧波到
る所に發行せられて居る今其組織を聞くに多くは信用ある人々の會
社組織にして其會社が事情を具して其國の道臺府縣知事へ出願する
府縣知事道臺は其會社の信用如何を調査し許可すべきものは高い税
金を徴して之を許可す會社は其期限内に於て自己の會社の彩票を發
賣する開票の時は道臺知縣の官吏立會の上にて開票せしめ一點の虚
偽詐術なきを検査して充分の信用を置かしむることとなせり而して
開票は多く番號票を出す器械と金額金高を出す器械とを備付け一方
に於て番號を振り出せば一方に於て金額を振り出し其金額は即ち其
番號の當り籤と爲す方法にして開票の時は公平を維持する爲め公衆
の縦覽を許して居るから開票場の其日の光景頗る雜沓して各々喜愛
の思ひを爲しつゝ萬一の僥倖を祈りつゝあり此の如く其組織完全に
して間然する所なきより各々競ふて之を買求せるより我日本人中に

も三萬圓一萬圓五千圓三千圓の富籤に當つて一時に資本を遣り出せしもの少なからず中にも或支那人か三萬圓を當てし其金額を會社から受取り現金にて勘定しつゝあるの際喜び極まつて逆上し氣絶せしものさへありたりと支那に於て此富籤法を公許するは一は政府が破格の高税を課し之を徵收することを得るが故に一は金融の一助となり地方富豪の資本を引出して中等以下下等社會の資本を遣出せしむる方法として尙一ツは支那人の投機心賭博心を利用して之を行ひつゝあるが如し彩票は一票五圓のもあれば一圓又は五十錢三十錢のもあり故に十萬圓の當り籤に六七人あることあり各々其彩票の高に應じて分配し之を受取ることにあり居れり。

賭博は支那人の室内遊藝にして親子夫婦友人親戚等相集りて勝敗を賭しつゝあるは決して珍らしとするに足らず正月三日は政府も之を公許するか故正月市中を散歩すれば室内室外大道又は軒下に於て

人山を築きつゝ盛んに所謂一六勝負を賭けつゝあり其尤も大なるものは春秋二季に於ける美人の催せる競馬場の賭博なり競馬場附近の家屋は大抵は此賭博場に使用され門前には印度の巡查や支那の巡查を張番せしめ以て其混雜喧騒を制し居れり人民が賭博を爲す爲に巡查に張番をさせて公然勝負をして居るのは我々日本人の目から見ると頗る奇觀と云はざるを得ず而して巡查は門前を通過する人々に向つて賭博を勧誘しつゝあるに至つて益々奇なり其賭博には種々あれども多くは狐と稱して我國の雙子六と同じく所謂一六の采の目によりて一より六迄の張り目あり其他日本の文廻ぶんまわしはしと稱する類にして賭博場は何れも人山を築きて混雜甚し一時間餘にして數百金を利するものあれば千金忽ち賭し盡して再舉更に勝敗を争ふもあり概して得るもの少なくして失ふもの多く中には猿と稱する同類を利用して好い鳥の來るを待つは日本の賭博と異なる處なし只其公許し

て壯んに之を行ひつゝあるは我々の奇怪とする所なり更に甚しきは
清人及歐米人の競馬に賭すること之れなり其金高は大にして數百圓
數千圓を賭し小と雖とも五圓十圓五十圓百圓を賭す歐米人の如きは
朝來綺羅を飾り馬車を驅つて夫婦相携へて來る入場料は一日三圓先
づ厩に到りて良馬駿足を檢して互に之を賭す其總額は一回何十萬圓
何百萬圓の巨額に達し快馬に一たび鞭を加へて之を試むるや堵の如
き觀客狂するが如く喚叫して勝敗を争へり其何の爲に斯くまで狂す
るか曰く彼等は金錢を賭し盡して終に最愛の妻を賭するが爲なりと
故に夫婦相携へ馬車を驅つて此場に入るも歸途最愛の妻を失ふて情
然家に歸るもあり即ち千金の代りに妻を質とし金錢を調達して來る
にあらざれば其妻を渡さず其契約は勵行せられて義之を興ふるか如
きことなく又歐米人の爲として家庭の主人公たる最愛の妻の爲には
如何なる苦痛も敢てするの風習なれば種々の算段苦面をして之を迎

ふるか故如何なる不道德家も良妻の爲には調達して其義務を果さ
るを得ず去れば當日良妻を失ふて苦悶するもの往々にしてありと
云ふに至りては彼等が如何に其投機心賭博心に狂せるかを知るに足
らん。

此外支那人間に於て時計を賭し物品を賭し種々の方法を以て富籤類
似の行はるゝこと擧げて數ふべからず我々日本人中にも郷に入れば
郷に従ひて惡事移り易く不知くの間支那化して賭博富籤に多錢
を投ずる紳士少なからず勞働者小供等の軒下道傍に三々五々群を爲
して賭博を爲すもの決して珍とするに足らず支那はドウしても賭博
國にして其人民は賭博の爲に生れ來りたるの觀あり渡清者實地に就
て之を見聞せば蓋し思半はに過ぐるものあらん。

◎支那の内地旅行

支那の内地を旅行せんとするものは前に詳述したる旅裝の準備を爲

し第一に本邦領事館に就て護照即ち内地旅行の免状の下附を請はさるべからず支那内地旅行者が其身分及旅行の目的及到着地を明記したる願書を領事館へ出すと領事は其地方の衙門に照會して護照を請求する其所で其地方衙門より又領事の手を経て出願者に下附さるゝ順序になつて居る而して其手数料は金二圓にして通用期限は大抵四百日先づ十三ヶ月間位である其所で此護照を下附して貰へば之に就て注意せんければならぬことがある其れは此護照に書ひてある旅行の各目的地の官衙に道臺より夫れへ通知してあるから其地へ着せば其地の官衙を訪ふて護照の點檢を受けねばならぬ自分が用事又は病氣等の爲に自ら官衙に出頭して點檢を受くる能はざる時は同行の保護兵か又は旅屋の主人に頼んで點檢をして貰ふが好い若しも護照の點檢等が面倒だからと云ふので右の手續きを怠つた時は疾病盜難喧嘩其他不慮の出來事があつた時に官衙の保護を受くること能はざ

る不幸を見ねばならぬから必ず此手續を怠らずに到る所の地方官へ届けて置くのが肝要である。

夫れから支那内地旅行の困難なることは夜具蚊帳食器其他一切の器具品を携帶する計りでなく交通の不便旅店の不完全市街村落の不潔サ加減から通信運搬の便もなければ盜難の恐れがあつても無警察同様であるから不用心不安心極まることから野犬の劍呑なこと青蠅南京蟲の多いことから旅行者の困難なことは一通りでない夫れで支那の諺にも在家千日好出外一日難と云つて居るが如く彼等と雖ども其旅行の困難なることには等しく歎息して居る位で支那人は官用と商用との外は決して旅行ナゾはしないことになつて居る。

◎支那人旅宿

夫れから目的地に着して旅宿に泊まるには第一旅宿を求めなければ

ならぬが支那の旅店には官吏や紳士紳商の定宿にして最上等のものは公館客棧と稱し我國內地の高等旅館に等しく客店客寓は中等店にして飯家店子は所謂我國の木賃宿である高等旅館の方は一人毎に一室を占領し夜具蒲團其他凡ての設備があつて何不自由はないが此高等旅館は繁華の都府でなければ少し田舎へ行くとないのに困る中等旅館は一室に雑居して所謂雜魚寢であるから喫煙飯飲を共にするこゝになつて居るが外國人は別に一室を貸して呉れるから成るべく値段が高くても雑居しないことにするが好い木賃宿に至りては豚小屋同様に土間の上や庭の上で犬や猫の様に彼地でも此地でも轉がつて寢るので所謂雜居で盜難の虞れがあるから木賃宿等には決して好奇心心にも泊まつてはならぬ南清地方の客店客寓の中等旅館では寢具の設備があるが北方各省では此設備がない又北方は寒國であるから冬には爐炕を焚くから暖だが長江筋邊では爐を焚かないので冬の旅行

には毛皮の衣服が必要である宿錢は高等旅館が四五十錢中宿が二三十錢木賃宿になれば三錢から五六錢であるか中等以上の旅店では帳場の番頭に二十錢ボーイに十錢或はボーイに五錢番頭に十錢位の心付けをしてやれば出發の際ナゾに船車人夫等の周旋に骨を折つて呉れるから奮發するが好い。

又旅宿に投ずるには成るべく客歩きやくふ繁き旅宿を撰び能く主人と面談して宿泊料をも定め手荷物等は能く注意して紛失のしない様に夜中に戸を叩ひて訪ふものがあつても其果して何人にして何の用事あるかを確めた上でなければ忘りに戸を開けてはならぬ又隣室で何事が起るふとも一切お構なしで済まし込むに限る人情風俗習慣の異つた言語の通せない所では何でもない事から飛んだ間違ひを惹き起すの虞れがあるから萬事控目に自衛策を講ずるのが一番の得策である。

◎内地旅行の注意

内地を旅行するには旅金は成るべく十兩以下の小銀貨にして銅錢等は地方到る所で換錢するが好い夫れに支那内地の旅行と云へば危険を虞れて刀鎗を携帯するものあるが之れは却つて支那人の恐怖心を招き短銃の如きも成るべく秘密にして人に示すべからず而して宿屋を出發するには成るべく遅くして日に三四里位の日割に旅するが好い夫れから荷物の擔人夫や船や車、轎子、騾馬を雇ふには先づ其問屋に就て切符を買ふべし單子即ち切符には車夫や人夫の姓名も何から何所まで何十錢と賃錢まで記入してあるから目的地に着すると其切符に幾位かの酒錢を添へて與へれば可い若し車夫馬丁船頭が途中で不都合の事あれば其地方官に訴へても好い支那の内地では日本の如く人力車はないが所によりて小車子があつて其小車は車輪が真中に一ツあつて兩側に荷物を積む様に出來て居るので一方に荷物を載せて一方に自分が乗るが好い二三里雇ふて車賃か二十錢位で酒錢酒錢の五錢

せて往く之れも二三里雇ふて十五錢か二十錢位のものである船に乗る時は能く約束して値切るが好い而して第一注意せんければならぬのは船から下りて乗り替へを要する時は最初乗る時に乗り替へ先きの船は何日の何時に出る目的地へは何日の何時頃に着するかと云ふことを調べんければならぬ乗替先きの船出時刻が間違ふと二三日も滞在せんければならぬこともあり別に船を頼めば一艘雇ひ切りになんければならぬ斯くては何れにしても不經濟極まること故合乗り船は何時に出帆するかと云ふことを豫め問答はせて確めて置かんければならぬ。

人夫にしても小車にしても殊に船賃の如きは外國人と見れば非常に賃金を貪ぼるの習慣があるから其所は宿屋の番頭に少しの心附けでもやつて置ひて能く頼ませるが好い時によれば支那人は一致團結力

内地を旅行するには旅金は成るべく十兩以下の小銀貨にして銅錢等は地方到る所で換錢するが好い夫れに支那内地の旅行と云へば危険を虞れて刀鎗を携帯するものあるが之れは却つて支那人の恐怖心を招き短銃の如きも成るべく秘密にして人に示すべからず而して宿屋を出發するには成るべく遅くして日に三四里位の日割に旅するが好い夫れから荷物の擔人夫や船や車、驛馬を雇ふには先づ其問屋に就て切符を買ふべし單子即ち切符には車夫や人夫の姓名も何から何所まで何十錢と賃錢まで記入してあるから目的地に着すると其切符に幾位かの酒錢を添へて與へれば可い若し車夫馬丁船頭が途中で不都合の事あれば其地方官に訟へても好い支那の内地では日本の如く人力車はないが所によりて小車子があつて其小車は車輪が真中に一ツあつて兩側に荷物を積む様に出來て居るので一方に荷物を載せて一方に自分が乗るが好い二三里雇ふて車賃か二十錢位で酒錢の五錢

もやれば結構だ小車のない所は致方はない矢張り人夫を雇ふて擔かせて往く之れも二三里雇ふて十五錢か二十錢位のものである船に乗る時は能く約束して値切るが好い而して第一注意せんければならぬのは船から下りて乗り替へを要する時は最初乗る時に乗り替へ先きの船は何日の何時に出て目的地へは何日の何時頃に着するかと云ふことを調べんければならぬ乗替先きの船出時刻が間違ふと二三日も滞在せんければならぬこともあり別に船を頼めば一艘雇ひ切りになんければならぬ斯くては何れにしても不經濟極まること故合乗り船は何時に出帆するかと云ふことを豫め問答はせて確めて置かんければならぬ。

人夫にしても小車にしても殊に船賃の如きは外國人と見れば非常に賃金を貪ぶるの習慣があるから其所は宿屋の番頭に少しの心附けでもやつて置ひて能く頼ませるが好い時によれば支那人は一致團結力

が強いから一人の人夫や船頭が一寸同業者に内通せば外の人夫や船頭は煙草を吹かして遊んで居てもお客を横取りして乗せて行くと云ふ様なことはしないから初めの約束を甘くせんければならぬ。

又非常に澤山の荷物や道中危険の恐れある内地に深く侵入せんとすれば日本の領事館から照會して貰つて支那の道臺及官衛に就て護衛の兵卒や巡査を頼むことも出来る護衛を附けて呉れと頼むと護照と云つて内地旅行の鑑札を呉れて官衛から官衛まで送り届けて呉れる宿屋の周旋から買物万端女の周旋までして呉れるから彼等の實費の外に日當として四五十錢も奮發してやらねばならぬ長い野原や深い山途に行く時ナゾは五人から十二三人も護衛として隨行して呉れる之れは外國人の旅行先きで盜難或は殺人等の若しもの事があつた時には其管轄地の知縣が知事又は郡長其責を負ふて免官休職等の處分を受けなければならぬから危険の地方旅行には二十人餘りも附けて

呉れる場合がある斯かる方法で行けば宿屋のない所では官衛かお寺か官吏の家でも宿を貸して呉れるから費用は掛かるが紳士の旅行には便利である少し内地へ行けば知縣の方から兵卒巡査の一二人位は黙つて居てもつけて呉れることになつて居るから大抵の人は旅は道連れ位の考で連れてる商人も澤山ある日本流に考へれば兵卒の護衛は豪氣だが巡査の護衛は罪人の様で變手古な考が起る。

夫れに旅行中は何程親切にして呉れる人があつても支那の旅行に慣れぬ間は決して同伴してはならぬ言語不通片言隻語の間違から如何なる迷惑を受くるかも知れない又支那にも到る所に淫賣婦が多いから無暗に之に接し或は破戸漢の巢窟たる遊里等には注意して近かない様にせねばならぬ随分紅粉を装ふた美的も居れば中にはお寺の尼や寢屋淋しき後家連が暮夜木蔭に立つて情の切り賣をするのが多いから注意をせぬと飛んだお土産を頂戴するかも知れん。

日本人で内地に行商するもの澤山ある様に噂すれども夫れは只無錢旅行としての旅費儲けか又は陸軍省の探偵農商務省の商業練習生が面白半分に成るべく荷物にならぬ藥品等を携帶して高價に賣りつける位のとて其他西洋小間物石鹼香水美顔水玻璃器寫眞屋落音器幻燈等を携へて遊歴跋渉するものもあるが商買として之によりて獨立の生活自衛の途を立て居るものは一人もない位で實際の行商として商品の需用供給を試みたものはないから内地の行商は餘程六ヶ敷様である併し日本内地の夜店縁日物を仕込んで支那人の嗜好に投ずる工夫をすれば案外賣れるかも知れない。

◎蘇州府

蘇州は馬關條約によりて開かれたる貿易港にして上海を去る西方二十八里の地に在り上海より蘇州溪を溯ること十四時間にして姑蘇城

外に達す蘇州府のある所にして城内は周圍二十有溝里西に太湖を控へ昔は吳都のこととて市街及近郊の風光によろしく都下の人口五十萬と號す日本居留地は只道路を劃するに止まり一茫の荒野に委せられ日本領事館郵船會社大東汽船會社等の支店と四五の商店あるのみにて日本人の數は七八十名に過ぎず此地の風俗は頗る優美にして支那風俗の新流行品の源泉地たるを以て見るも其如何に古雅に而して新奇の風尚に富めるかを知るに足るべく都下の人士は文人墨客の風流才子多く随つて優柔俗を爲し閑雅風を爲し恰かも日本の大和の如し彼の揚家の姫妃と並び稱せられたる西施美人は即ち此地の産たり物産は米棉花等にして殊に絹織物刺繡金銀首飾等は意匠古雅にして此地より各地に輸出するもの非常に多く日本より此地に輸出する貿易額は一ヶ年百万圓内外に達し其重なるものは綿織物毛織物雜貨食品等にして日本へ輸出するものは生糸絹織物鷄卵棉種牛骨藥種等に